

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 33

平成28年度発掘調査報告

(第1分冊)

長谷小路周辺遺跡

材木座町屋遺跡

下馬周辺遺跡

由比ヶ浜南遺跡

今小路西遺跡

極楽寺旧境内遺跡

平成29年3月

鎌倉市教育委員会



長谷小路周辺遺跡（由比ガ浜三丁目 254 番 1）土坑 21 出土の貝



材木座町屋遺跡（材木座二丁目 208 番 1 地点）第 2 面全景（西から）

ご あ い さ つ

本市は、市域のおおよそ6割が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

近年、古い家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が増加し、長い年月地下で眠っていた文化財が失われることも増加してきています。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18・20・22・23・25・27年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査11ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉の歴史を解き明かす一助となればと願う次第です。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなお協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成29年3月31日

鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は平成28年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第1分冊及び第2分冊）である。
- 2 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

総目次

(第1分冊)

| | |
|---|-----|
| ごあいさつ | I |
| 例言 | II |
| 目次 | III |
| 本誌掲載の平成18・20・22・23・25・27年度発掘調査地点一覧 | VI |
| 平成28年度調査の概観 | VII |
| 調査地点位置図 | IX |
| | |
| 1 長谷小路周辺遺跡 (No.236) 由比ガ浜三丁目254番1地点 | |
| 第一章 遺跡の位置と歴史的環境 | 4 |
| 第二章 検出した遺構と遺物 | 9 |
| 第三章 まとめ | 19 |
| | |
| 2 材木座町屋遺跡 (No.261) 材木座二丁目208番1地点 | |
| 第一章 遺跡の位置と歴史的環境 | 46 |
| 第二章 検出遺構と出土遺物 | 54 |
| 第三章 まとめ | 92 |
| | |
| 3 下馬周辺遺跡 (No.200) 由比ガ浜二丁目54番15地点 | |
| 第一章 遺跡の位置と歴史的環境 | 136 |
| 第二章 発見された遺構と遺物 | 140 |
| 第三章 まとめ | 149 |
| | |
| 4 由比ヶ浜南遺跡 (No.315) 長谷二丁目176番8地点 | |
| 第一章 遺跡の位置と歴史的環境 | 170 |
| 第二章 発見された遺構と遺物 | 176 |
| 第三章 まとめ | 185 |
| | |
| 5 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目134番4地点 | |
| 第一章 遺跡の概要 | 201 |
| 第二章 検出遺構と出土遺物 | 204 |
| 第三章 まとめ | 209 |
| | |
| 6 極楽寺旧境内遺跡 (No.291) 極楽寺四丁目923番2の一部地点 | |
| 第一章 遺跡の位置と歴史的環境 | 222 |

| | | |
|-----|------------|-----|
| 第二章 | 調査の方法と経過 | 225 |
| 第三章 | 基本土層 | 226 |
| 第四章 | 発見された遺構と遺物 | 228 |
| 第五章 | 調査成果のまとめ | 237 |

(第2分冊)

| | |
|----|-----|
| 例言 | II |
| 目次 | III |

7 米町遺跡 (No.245) 大町二丁目2340番1地点

| | | |
|-----|------------------|----|
| 第一章 | 遺跡の位置と歴史的環境 | 5 |
| 第二章 | 調査の方法と経過 | 5 |
| 第三章 | 基本土層 | 8 |
| 第四章 | 発見された遺構と遺物 | 12 |
| 第五章 | 調査成果のまとめ | 28 |
| 付 編 | 米町遺跡の寄生虫卵分析・花粉分析 | 47 |

8 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町六丁目1506番11の一部地点

| | | |
|-----|-------------|----|
| 第一章 | 遺跡の位置と歴史的環境 | 73 |
| 第二章 | 調査の方法と経過 | 75 |
| 第三章 | 基本土層 | 76 |
| 第四章 | 発見された遺構と遺物 | 78 |
| 第五章 | 調査成果のまとめ | 86 |

9 北条小町邸跡 (No.282) 雪ノ下一丁目403番14地点

| | | |
|-----|-------------|-----|
| 第一章 | 遺跡の位置と歴史的環境 | 97 |
| 第二章 | 調査の方法と経過 | 99 |
| 第三章 | 基本土層 | 100 |
| 第四章 | 発見された遺構と遺物 | 106 |
| 第五章 | 調査成果のまとめ | 120 |

10 長谷小路周辺遺跡 (No.236) 由比ガ浜三丁目194番71地点

| | | |
|-----|-------------|-----|
| 第一章 | 遺跡の位置と歴史的環境 | 159 |
| 第二章 | 検出遺構と出土遺物 | 167 |
| 第三章 | まとめ | 170 |

11 台山遺跡 (No. 29) 山ノ内860番2地点

| | | |
|-----|-----------------------|-----|
| 第一章 | 遺跡の位置と歴史的環境 | 217 |
| 第二章 | 調査の方法と経過 | 220 |
| 第三章 | 基本土層 | 221 |
| 第四章 | 発見された遺構と遺物 | 221 |
| 第五章 | 調査成果のまとめ | 231 |
| 付 編 | 台山遺跡の花粉分析とプラント・オパール分析 | 232 |

本誌掲載の平成18・20・22・23・25・27年度発掘調査地点一覧

第1分冊

| | 遺跡名 | 所在地 | 調査原因 | 遺跡種別 | 調査面積 | 調査期間 |
|--------|----------------------|--------------------|------------------------|------|-------|-----------------------------|
| 1 ▲ | 長谷小路周辺遺跡 (N0.236) | 由比ガ浜三丁目254番1 | 自己用店舗併用住宅 (柱状改良工事) | 都市 | 33.00 | 平成18年8月21日 ～平成18年10月3日 |
| 2 ▲ | 材木座町屋遺跡 (N0.261) | 材木座二丁目208番1 | 個人専用住宅兼事務所 (柱状改良工事) | 都市 | 45.00 | 平成19年2月26日 ～平成19年5月1日 |
| 3 △ | 下馬周辺遺跡 (N0.200) | 由比ガ浜二丁目54番15 | 個人専用住宅 (鋼管杭工事) | 都市 | 18.00 | 平成20年6月10日 ～平成20年7月7日 |
| 4 △ | 由比ガ浜南遺跡 (N0.315) | 長谷二丁目176番8 | 個人専用住宅 (基礎工事) | 都市 | 55.00 | 平成20年7月23日 ～平成20年8月15日 |
| 5 △ | 今小路西遺跡 (N0.201) | 由比ガ浜一丁目134番4 | 個人専用住宅 (基礎工事) | 都市 | 48.00 | 平成20年10月20日 ～平成20年11月10日 |
| 6 ● | 極楽寺旧境内遺跡 (N0.291) | 極楽寺四丁目923番2の 一部 | 個人専用住宅 (鋼管杭工事) | 社寺 | 65.00 | 平成23年1月31日 ～平成23年3月31日 |

第2分冊

| | 遺跡名 | 所在地 | 調査原因 | 遺跡種別 | 調査面積 | 調査期間 |
|---------|----------------------|---------------------|--------------------|----------------------------|--------|-----------------------------|
| 7 ○ | 米町遺跡 (N0.245) | 大町二丁目2340番1 | 個人専用住宅 (柱状改良工事) | 都市 | 72.00 | 平成23年4月25日 ～平成23年7月8日 |
| 8 ■ | 名越ヶ谷遺跡 (N0.231) | 大町六丁目1506番11の 一部 | 個人専用住宅 (柱状改良工事) | 屋敷跡 | 55.00 | 平成25年4月15日 ～平成25年5月31日 |
| 9 ■ | 北条小町邸跡 (N0.282) | 雪ノ下一丁目403番14 | 個人専用住宅 (鋼管杭工事) | 屋敷跡 | 41.80 | 平成25年10月10日 ～平成25年12月27日 |
| 10 ■ | 長谷小路周辺遺跡 (N0.236) | 由比ガ浜三丁目194番71 | 個人専用住宅 (柱状改良工事) | 都市 | 140.00 | 平成25年11月1日 ～平成26年3月7日 |
| 11 □ | 台山遺跡 (N0.29) | 山ノ内860番2の一部 | 個人専用住宅 (鋼管杭工事) | 遺物散布地 中世館跡 岩跡 集落跡 | 69.60 | 平成27年4月28日 ～平成27年6月23日 |

▲印は平成18年度実施の発掘調査
 △印は平成20年度実施の発掘調査
 ●印は平成22年度実施の発掘調査
 ○印は平成23年度実施の発掘調査
 ■印は平成25年度実施の発掘調査
 □印は平成27年度実施の発掘調査

平成 28 年度調査の概観

平成 28 年度の緊急調査実施件数は 4 件であり、調査面積は 423.04㎡であった。これを前年度の 3 件、199.61㎡と比較してみると件数は 1 件の増加となり、調査面積は 223.43㎡の増加となった。1 件の調査面積は平均で 105.76㎡（前年度は 66.53㎡）であり、前年度よりも増加となるが、この増加は、面積の広い調査 1 件の影響によるものである。

調査原因は 4 件とも個人専用住宅の建設である。これらの工種別内訳は、杭基礎工事が 1 件、地盤改良工事が 3 件となっている。今年度も地盤改良工事や杭打ち工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著である。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査面積及び調査期間等については「平成 28 年度調査地点一覧」を参照。）

1 積善遺跡 (No.440)

十二所字積善に所在し、明王院の南方約 175m に位置する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀から 15 世紀にかけて 6 時期にわたる生活面が確認でき、石列、溝状遺構、土坑、柱穴、井戸を検出した。かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、木製品、石製品などが出土している。

2 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)

市内東部の二階堂字荏柄に所在し、鎌倉駅から北東へ約 1320m に位置している。杭基礎工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、二階堂大路に並行して延びる 13 世紀代の溝や柱穴列、それ以前に遡る小規模な溝などを確認した。遺物にはかわらけや国産陶器、舶載陶磁器、瓦があり、古代の土師器、須恵器も一定量が出土している。

3 今小路西遺跡 (No.201)

市内中心部の由比ガ浜一丁目に所在し、鎌倉駅から南西へ約 650m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀から 14 世紀の整地面を確認し、竪穴建物や土坑、ピットを検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、金属製品が出土している。

4 名越ヶ谷遺跡 (No.231)

市内東南部の大町に所在し、安国論寺の西約 150m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、複数の生活面が確認でき、土坑、溝、柱穴などを検出した。かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器が出土している。

平成 28 年度発掘調査地点一覧

| | 遺 跡 名 | 所 在 地 | 調 査 原 因 | 遺跡種別 | 調査面積 | 調 査 期 間 |
|---|-----------------------|---------------------|---------|-------------|--------|--|
| 1 | 積善遺跡 (No. 440) | 十二所字積善 944 番 6,7,10 | 個人専用住宅 | 散布地 | 67.90 | 平成 28 年 5 月 12 日 ～平成 28 年 9 月 7 日 |
| 2 | 大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49) | 二階堂字荏柄 12 番 8 | 個人専用住宅 | 官衙跡 | 69.14 | 平成 28 年 5 月 10 日 ～平成 28 年 7 月 15 日 |
| 3 | 今小路西遺跡 (No. 201) | 由比ガ浜一丁目 163 番 1 | 個人専用住宅 | 城館跡 都市遺跡 | 250.00 | 平成 28 年 10 月 31 日 ～平成 29 年 3 月 17 日 |
| 4 | 名越ヶ谷遺跡 (No. 231) | 大町四丁目 2370 番 2 の一部 | 個人専用住宅 | 城館跡 | 36.00 | 平成 29 年 1 月 10 日 ～平成 29 年 3 月 8 日 |

鎌倉市全図

平成28年度の緊急発掘調査地点 (1~4)
本書掲載の平成18・20・22・23・25・27年度発掘調査地点 (①~⑪)
※遺跡名は一覧表を参照



長谷小路周辺遺跡 (No.236)

鎌倉市由比ガ浜三丁目 254 番 1 地点

例 言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜三丁目 254 番 1 地点に所在する、個人専用住宅の新築に先だち行われた長谷小路周辺遺跡（県遺跡台帳No.236）の発掘調査報告書で、遺跡の略号はH K S 0 6 1 3である。
2. 発掘調査は平成 18 年 8 月 16 日から同年 10 月 3 日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査面積は 33㎡である。
3. 本報使用の遺物実測図及び遺物トレースは調査員が分担し、原稿執筆、図版版組、遺物写真撮影、は福田 誠が担当し、編集も福田が行った。
4. 本報に使用した遺構写真は、鈴木絵美、古田土俊一が、出土遺物写真は、福田が撮影を行った。
5. 発掘調査の体制は以下の通りである。
調査担当者 鈴木絵美 福田誠（鎌倉市教育委員会嘱託）
調 査 員 菊川泉 古田土俊一 石元道子
作 業 員 （社）鎌倉市シルバー人材センター 清水光一 天野隆男 川島仁司 赤坂進
6. 資料整理の体制は以下の通りである。
整理担当者 福田誠（鎌倉市教育委員会嘱託）
調 査 員 岡田慶子 佐藤千尋（鎌倉市文化財課臨時的任用職員）
7. 発掘調査資料（記録図面・写真・出土遺物）は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。
8. 調査時に用いた鎌倉市 4 級基準点（旧地系）座標は、資料整理の段階で国土地理院世界測地系座標変換ソフト Web 版（TKY2JGD）を用い世界測地系座標に変換した。

| | 旧地系 | → | 世界測地系 |
|------|--------------|---|--------------|
| D233 | X=-76425.723 | | X=-76068.998 |
| | Y=-26040.913 | | Y=-26334.346 |
| 原点 1 | X=-76441.288 | | X=-76084.562 |
| | Y=-26054.785 | | Y=-26348.219 |

水準点は鎌倉市 3 級基準点 53123（L=10.745m）の海拔を原点 1（L=11.196m）に移動し用いた。

目 次

| | |
|-----------------|----|
| 第一章 遺跡の位置と歴史的環境 | 4 |
| 第1節 遺跡の位置 | |
| 第2節 歴史的環境 | |
| 第3節 調査の経過 | |
| 第二章 検出した遺構と遺物 | 9 |
| 第1節 第1面の遺構と遺物 | |
| 第2節 第2面の遺構と遺物 | |
| 第3節 第3面の遺構と遺物 | |
| 第4節 最終トレンチ | |
| 第三章 まとめ | 19 |

挿図目次

| | | | |
|-----------------------------|----|---------------------|----|
| 図1 調査地点位置図 | 5 | 図7 表土・表採、1面までの遺物 | 12 |
| 図2 国土座標値 | 6 | 図8 1面までの遺物 | 13 |
| 図3 調査地点周辺図① | 7 | 図9 1面まで・1面遺構の遺物 | 14 |
| 図4 調査地点周辺図② | 8 | 図10 1面遺構・2面までの遺物 | 15 |
| 図5 1・2面全測図と土層断面図 | 10 | 図11 2面まで・2面遺構の遺物 | 17 |
| 図6 3面全測図、最終トレンチ平面図 | 11 | 図12 2面遺構・3面・3面遺構の遺物 | 18 |
| 遺物観察表1・2・3（図7・8・9・10・11・12） | 20 | 土坑20 出土貝類の分類表 | 16 |
| | | 土坑21 出土貝類の分類表 | 16 |

図版目次

| | | | |
|----------------------|----|----------------------|----|
| 図版1 長谷通りと並行して検出された道路 | 23 | 図版10 表土、表採・1面までの出土遺物 | 32 |
| 図版2 1面全景 | 24 | 図版11 1面までの出土遺物 | 33 |
| 図版3 1面道路 | 25 | 図版12 1面まで・1面遺構の遺物 | 34 |
| 図版4 1面の遺構 | 26 | 図版13 1面遺構・2面までの遺物 | 35 |
| 図版5 2面全景 | 27 | 図版14 2面まで・2面・2面遺構の遺物 | 36 |
| 図版6 2面の遺構 | 28 | 図版15 2面遺構・3面・3面遺構の遺物 | 37 |
| 図版7 3面全景 | 29 | 図版16 土坑20 出土の貝類 | 38 |
| 図版8 3面の遺構 | 30 | 図版17 土坑21 出土の巻き貝 | 39 |
| 図版9 最終トレンチ | 31 | 図版18 土坑21 出土の二枚貝 | 40 |

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 遺跡の位置

調査地点の鎌倉市由比ヶ浜三丁目 254 番 1 は、笹目郵便局の東隣りに位置し、若宮大路下馬交差点より長谷寺に向かい西に延びる由比ヶ浜通り（国道 134 号線）の南側、塔ノ辻で分岐し稲瀬川口を経て稲村ヶ崎に向かう市道の北側、二つの道路に挟まれている。

第2節 歴史的環境

調査地点の北側に面する由比ヶ浜通りは「長谷小路」の道筋に当たると考えられる。この長谷小路の名は長谷寺が創建（註1）されて以降の名で、大町大路の一部とも考えられる。また、調査地点の南側を東西に、長谷小路から稲村ヶ崎に向かって延びる路は、稲村崎路にあたると考えられている。

「吾妻鏡」によると建長4年4月、宗尊親王が京都から下り鎌倉に入ったときに、極楽寺坂は通らず、稲村ヶ崎を廻り由比ヶ浜の鳥居の西を経て下の下馬橋に至ることが見えている。この稲村ヶ崎（註2）からの道筋は、海づたいに稲村ヶ崎を廻り、稲瀬川から内陸に入り六地蔵・若宮大路一の鳥居を経て北に、そこから下の下馬橋に至ったと考えられる。

稲村崎路が稲瀬川口から内陸に入り六地蔵に向かう途中、長谷小路との合流地点（佐々目の塔ノ辻）の西側が調査地点の位置と思われる。この一帯は、一の鳥居辺りから西に延びる砂丘の端にあたり、西側は長谷、南側は海岸に向かいなだらかに下っている。北側には砂丘に沿って東西に長く後背湿地（ラグーン）が広がっていたと考えられ、しばしば古代の土器片など遺物が採取されている。

調査地点一帯の町名「笹目」は、佐助ヶ谷と長谷の間、笹目ヶ谷に由来すると考えられる比較的古い地名で、『吾妻鏡』によれば鎌倉幕府第四代執権の北条経時はここ笹目ヶ谷に葬られたという。

註1 長谷寺は天平8年(736)の創建と云われているが、大和長谷寺の縁起にならったものと思われる。詳しい創建年代は不明であるが、梵鐘に文永元年(1264)7月15日の銘が見られることから鎌倉時代末には成立していたと考えられる。

註2 この稲村ヶ崎から稲瀬川・六地蔵・一の鳥居・元八幡宮・辻の薬師を経て名越に至る道筋は、車大路や旧東海道の道筋に近いともいわれ大町大路よりも古い路と考えられる。

第3節 調査の経過

長谷小路周辺遺跡内の、神奈川県鎌倉市由比ヶ浜三丁目 254 番 1 の個人専用住宅新築工事に伴う建築申請を受け、鎌倉市教育委員会文化財課は周辺の発掘調査の状況から、新築工事に先立ち埋蔵文化財の発掘調査の必要性を認めた。施主の了解を戴き、住宅の基礎が入る部分に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財発掘調査を行う運びとなった。発掘調査は、平成18年8月16日より同年10月3日までの日程で行われ、調査対象面積は33㎡である。

調査にあたって、調査地の北側を東西に走る由比ヶ浜通りを意識して測量用の方眼を設定した。道脇にある市4級基準点のうちD232 (X=-76384.983・Y=-26063.193) と D233 (X=-76068.998・Y=-26334.346) を用いて調査原点 (X=-76084.562・Y=-26348.219) を設置した。また、交差点脇に設置してある市3級基準点 (No. 53,123) の海拔高 (10.730 m) を移動し、調査地の脇に設けた仮水準点 (11.196 m) を用いた。調査地に設定した方眼の南北軸線は真北より N -12° 24' 30" - W である。

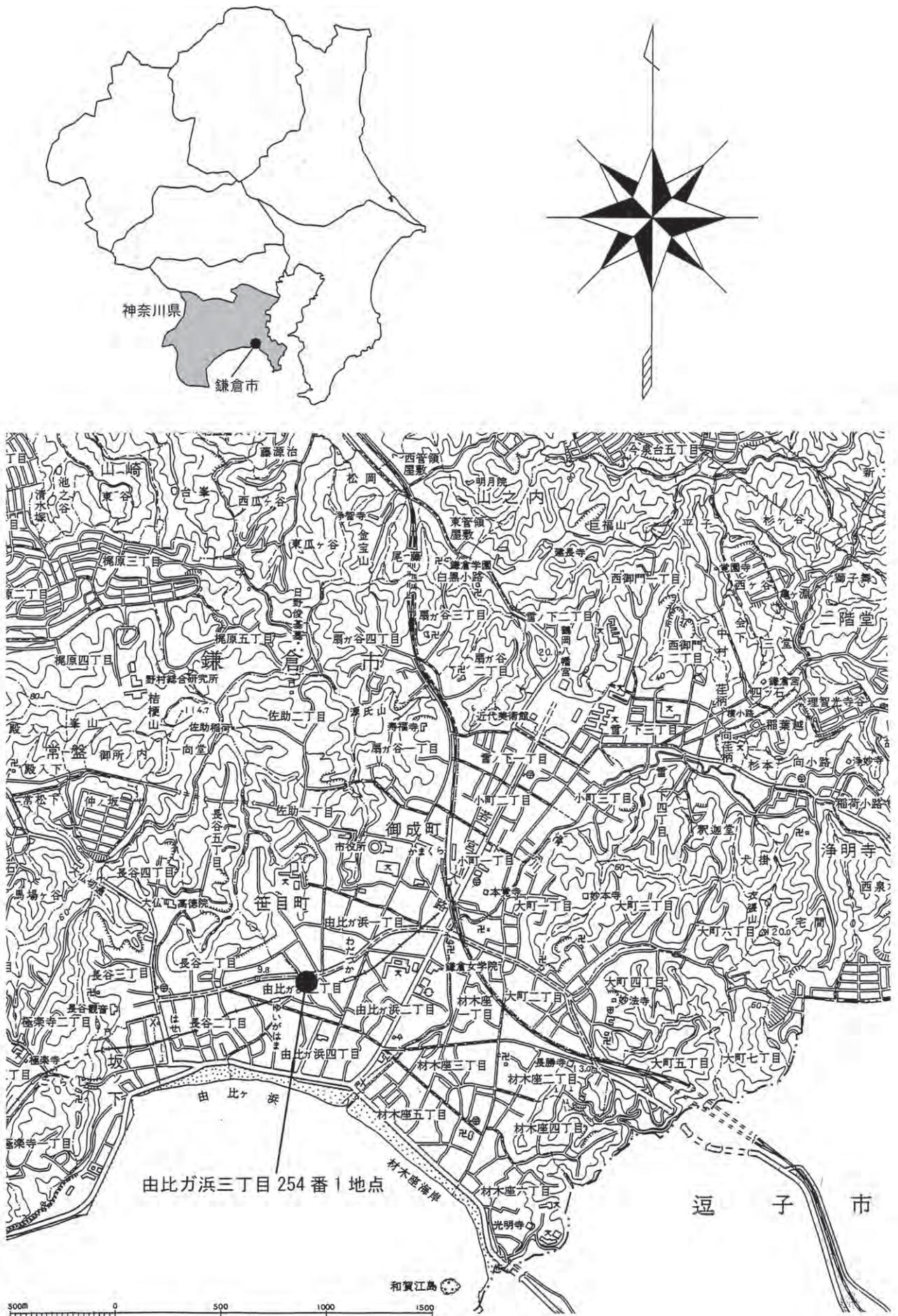


図1 調査地点位置図

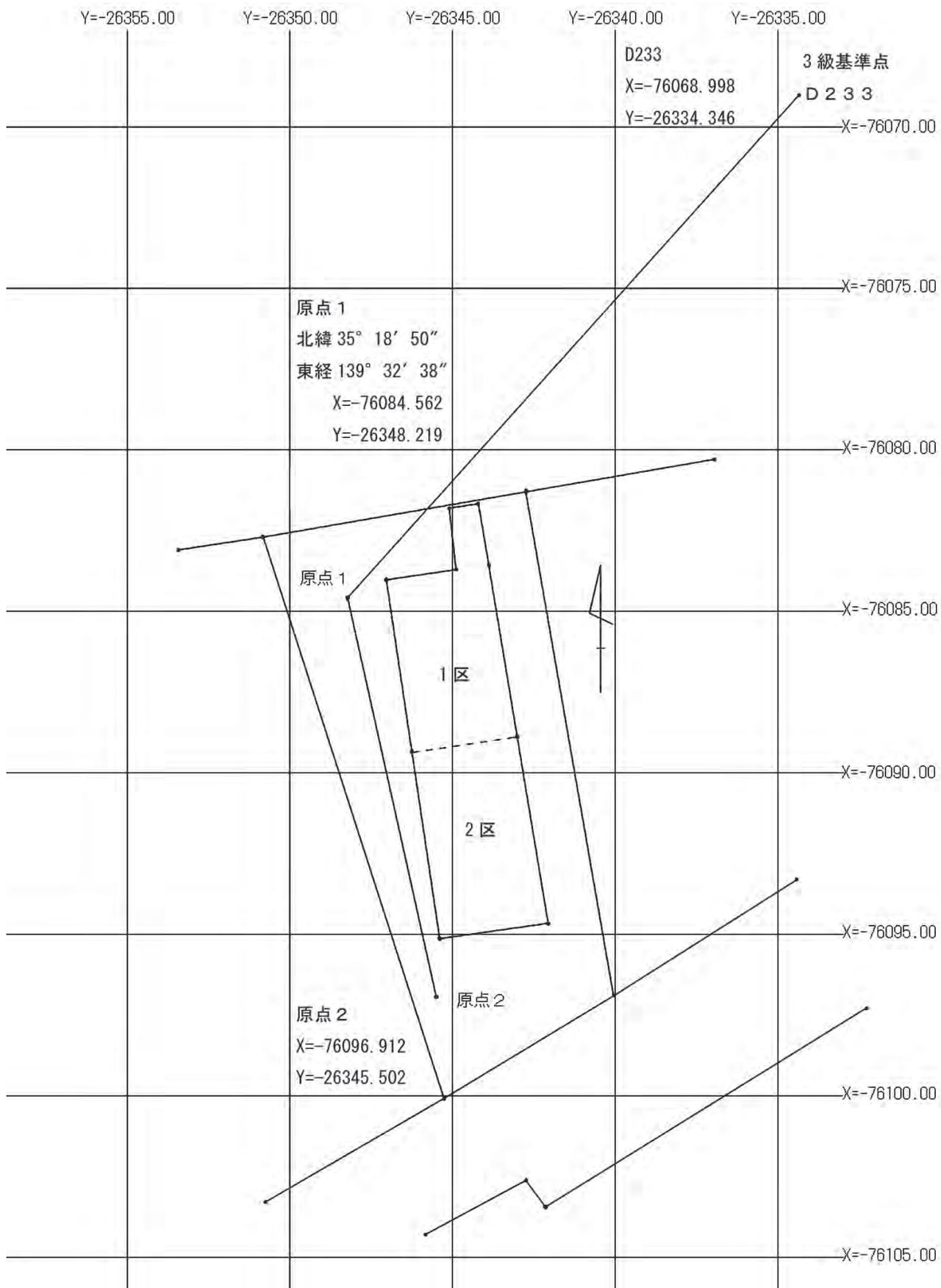


図2 国土座標

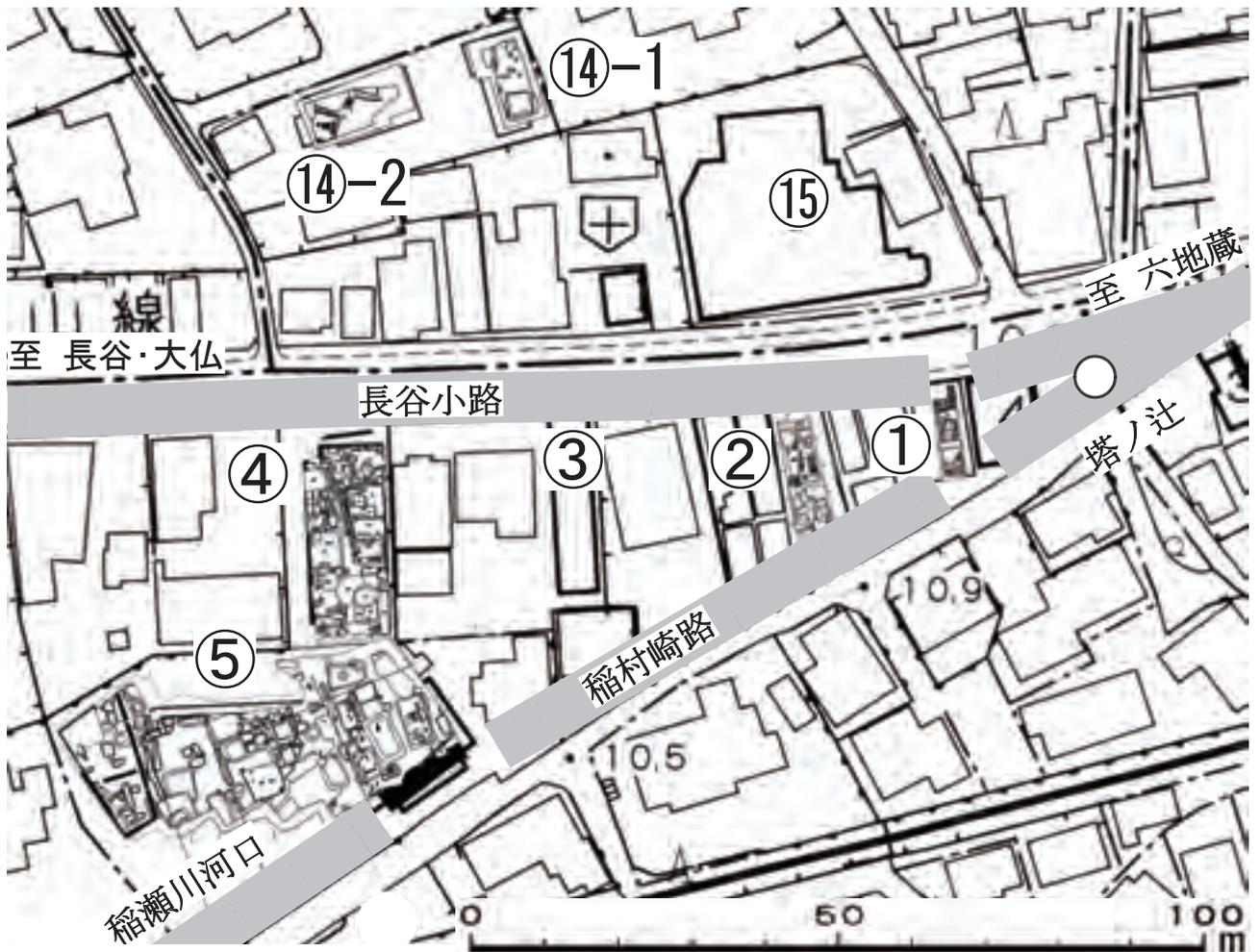


図3 調査地点周辺図①

長谷小路周辺遺跡

- ①由比ガ浜三丁目254番1地点 本調査地点
- ②由比ガ浜三丁目254番15地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1』2001
- ③由比ガ浜三丁目254番24地点(県埋蔵報告32)
- ④由比ガ浜三丁目258番8地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』1990
- ⑤由比ガ浜三丁目258番1地点『長谷小路周辺遺跡』長谷小路周辺遺跡発掘調査団1995
- ⑥由比ガ浜三丁目194番40地点『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』1997
- ⑦由比ガ浜三丁目1175番2地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10』1994
- ⑧由比ガ浜三丁目1173番3他地点「長谷小路周辺遺跡 -第20地点発掘調査報告-」長谷小路周辺遺跡発掘調査団2001
- ⑨由比ガ浜三丁目1262番2地点「長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目1262番2、1251番1・2地点発掘調査報告書」『東国歴史考古学研究所調査研究報告31集』東国歴史考古学研究所2002
- ⑩由比ガ浜三丁目1262番6地点『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』2000
- ⑪由比ガ浜三丁目1256番4・5、1260番1・3・4・5地点『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』2005
- ⑫由比ガ浜三丁目229番外地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9』1993
- ⑬由比ガ浜三丁目223番11地点(県埋蔵報告33)

笹目遺跡

- ⑭-1笹目町285番1外地点「笹目遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告17-2』2001
- ⑭-2笹目町286番1外地点「笹目遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告17-2』2001
- ⑮笹目町316番10地点(未報告)



図4 調査地点周辺図②

今小路西遺跡

- ⑬ 由比ガ浜一丁目213番3地点『今小路西遺跡』今小路西遺跡発掘調査団1993
- ⑭ 由比ガ浜一丁目213番12地点『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』鎌倉市教育委員会2012
- ⑮ 由比ガ浜一丁目211番18、19外地点『今小路西遺跡』(有)鎌倉遺跡調査会2015

由比ガ浜集団墓地遺跡

- ⑯ 由比ガ浜四丁目1130地点(県埋蔵報告37)
- ⑰ 由比ガ浜四丁目1136番地点『由比ガ浜集団墓地遺跡発掘調査報告書』1997
- ⑱ 由比ガ浜四丁目6番9地点『由比ガ浜集団墓地遺跡発掘調査報告書』1994
- ⑲ 由比ガ浜四丁目1170番1地点『由比ガ浜集団墓地遺跡(No.372)発掘調査報告書』(株)博通2014
- ⑳ 由比ガ浜四丁目1171番3他地点(県埋蔵報告30)
- ㉑ 由比ガ浜四丁目1179番1外地点『由比ガ浜中世集団墓地遺跡』「第5地点1次・2次発掘調査」
- ㉒ 由比ガ浜四丁目1181番地点『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』1983

向原古墳群

- ㉓ 和田塚(采女塚)

第二章 検出した遺構と遺物

本遺跡では残土を場内に置く必要性から便宜的に調査を1区・2区に分けて調査を行ったが、調査面積が狭いことから、遺構面を合成した状態で報告することとする。

地表から掘り下げて、最初の遺構面を1面として順次掘り下げて確認した遺構面を2面、3面として建物基礎が及ばない深さに確認のために開けた小トレンチを最終トレンチと呼ぶ。

第1節 第1面の遺構と遺物（図5、図7～10、図版1～4、図版10～13）

調査地の海拔は北側で約11.2m、南側で約11.7mで南側が50cmほど盛土で高まっている。逆に1面は北側では地表下約50cmの海拔10.7m、南側では約120cmの海拔10.2mで検出し、南側が低くなっている。

1面で確認された遺構は土丹を敷き詰めた道路と素掘りの溝と土坑、柱穴等である。出土の1面まで、1面、1面遺構の遺物を見てみると、かわらけ、青磁蓮弁文碗、梅瓶、瀬戸折縁皿、瀬戸卸皿、瀬戸入子、瀬戸平碗、瀬戸仏華瓶、常滑甕、常滑Ⅰ類片口鉢、常滑Ⅱ類片口鉢、鉄釘、銭等が出土している。常滑製品の多くが常滑編年6a・6b、瀬戸製品の多くが中期Ⅰ期・Ⅱ期といずれも13世紀中から14世紀初頭の年代と考えられる。かわらけも器壁が厚く、器高が低め、胎土は砂が多め、口径は12cm大と7cm大の2種類に分けられることから、概ね13世紀後半代の年代と考えられる。

道路

調査地の北隅から南に約3m、東西に3mの範囲に大きさ約20cmの土丹を突き固めた面と砂層が互層状に重なった道路と考えられる遺構が検出された。突き固めた面と砂層が交互に少なくとも3回以上積み重なり、一番下の道路面は南北に約5mと幅が広い。

3軒西側の調査（鎌倉市緊急調査報告17 由比ヶ浜三丁目254番15地点 2001年）でも同じ道路遺構が（東西4.5m、幅1.3m）確認されている。道路面は現在の由比ヶ浜通りの下に広がる。道幅は不明だが、通りに並行し東西方向に延びていると考えられる。現由比ヶ浜通りと並行することから、長谷小路と推測される。

溝と道路

調査地の南隅でも長さ約3m、幅約1m程の溝1と道路面が確認された。当遺跡の東、塔ノ辻から稲瀬川河口に向かう稲村崎路に沿っていることから溝は道路側溝の可能性はある。溝脇の遺構面は灰色砂質土に5～10cm大の土丹を混ぜ造られた道路面と推察される。溝内からは青磁鎚蓮弁文碗、器高が低めの糸切りかわらけが出土している。

土坑

土坑は8穴確認された。その多くがゴミ捨て穴と考えられるが、砂質の土壌のために有機質は分解されて遺存していない。土坑1ではかわらけのほか軽石製の浮子が、土坑2では砥石と切り出し途中の加工骨が検出されている。

第2節 第2面の遺構と遺物（図5、図10～12、図版5・6、図版13～15）

道路面の下

1面で確認された長谷小路と推察される道路面は確認されない。2面の上で常滑編年6a、Ⅱ類片口鉢と大、小2点の手捏ね成形のかわらけが出土している。常滑編年6aの年代が13世紀中頃、手捏ね成形かわらけも13世紀中～後、長谷小路を通すきっかけになったと云われている長谷寺の創建年代

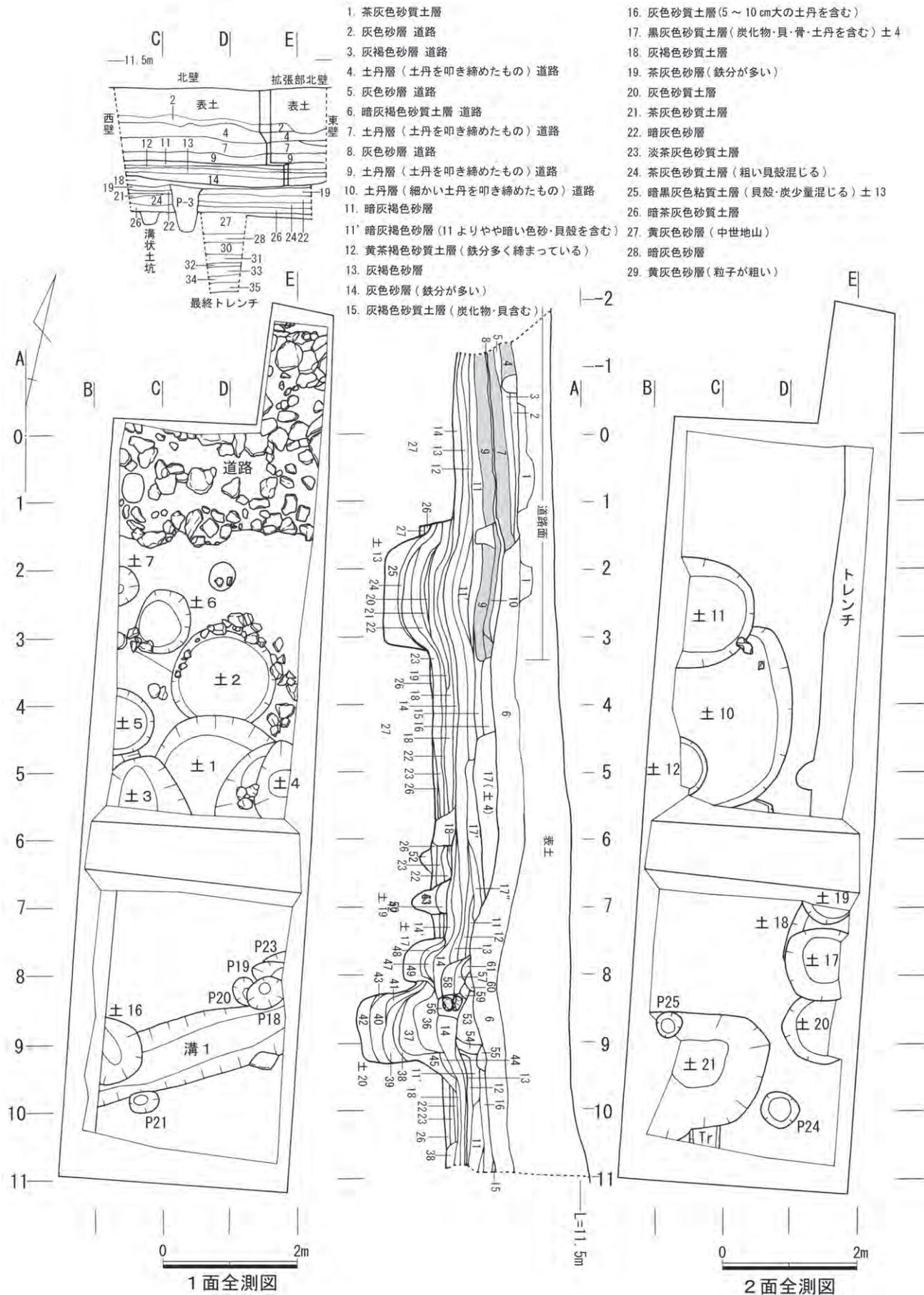
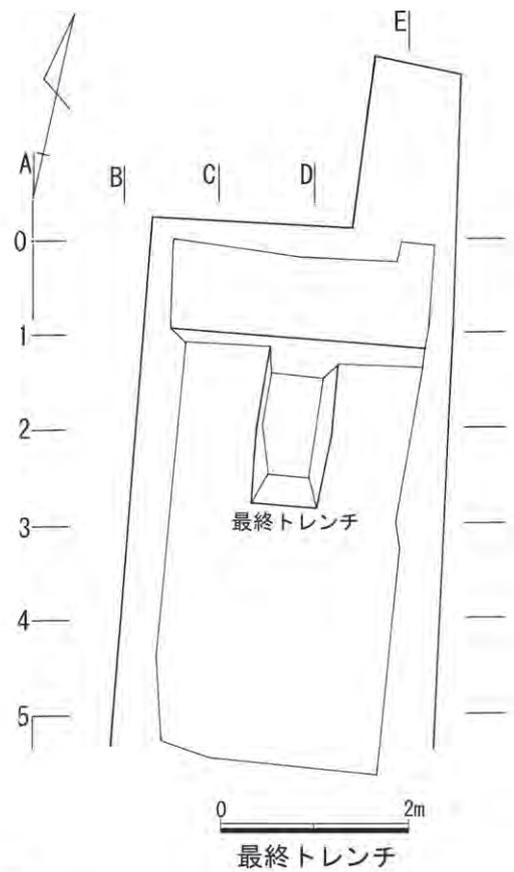
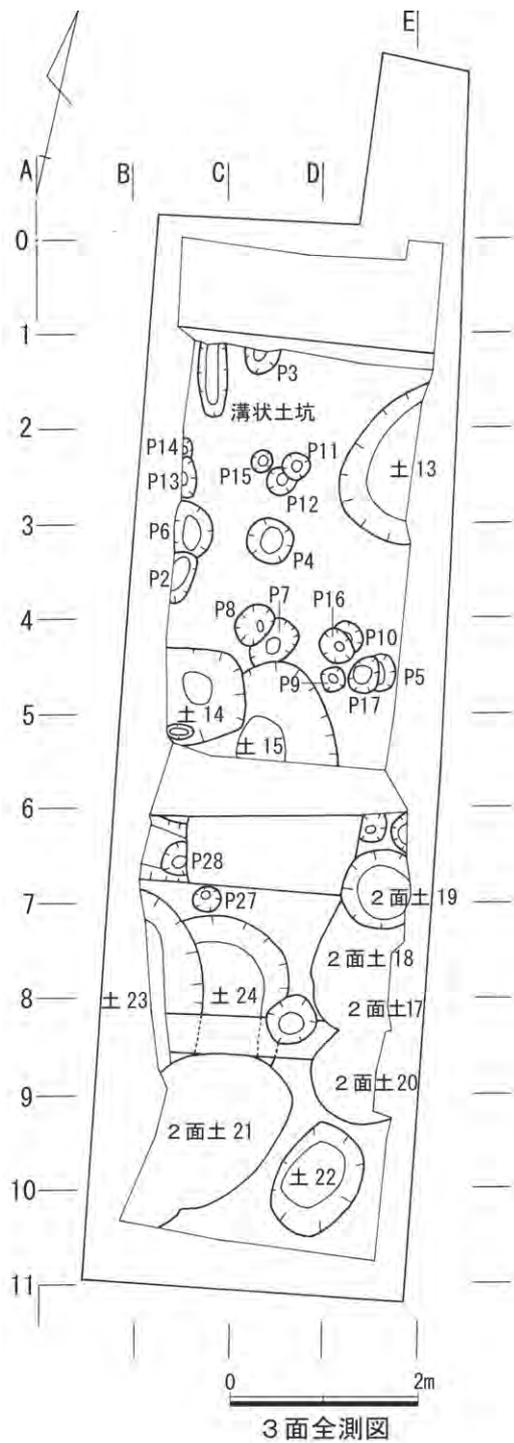


図5 1・2面全測図と土層断面図



30. 黄茶灰色砂層 最終トレンチ
31. 黄茶灰色砂層 (30より砂の粒子が粗い) 最終トレンチ
32. 暗灰色砂層 最終トレンチ
33. 暗茶灰色砂層 最終トレンチ
34. 黄灰色砂層 (やや明るい色) 最終トレンチ
35. 灰褐色土層 最終トレンチ
36. 茶灰色砂質土層 (炭化物を若干含む) 土坑20の覆土
37. 茶灰色砂質土層 (炭化物・貝殻を含む) 土坑20の覆土
38. 灰褐色砂質土層 (炭化物を含む) 土坑20の覆土
39. 黄褐色砂質土層 (炭化物を多く含む) 土坑20の覆土
40. 黄褐色砂質土層 (炭化物を多く含む) 土坑20の覆土
41. 茶褐色粘質砂層 (炭化物・貝殻を多く含む) 土坑20の覆土
42. 灰褐色粘質砂層 (炭化物を少量含む) 土坑20の覆土
43. 黄褐色砂質土層 (炭化物を少量含む) 土坑20の覆土
44. 茶褐色砂質土層 (土丹粒と貝殻、炭化物を含む)
45. 茶褐色砂質土層 (土丹粒と貝殻を含む)
46. 灰褐色砂質土層 (炭化物を含む)
47. 灰褐色砂質土層 (炭化物を多く含む)
48. 灰褐色砂質土層 (炭化物多く含む)
49. 茶褐色砂質土層 (炭化物を含む)
50. 灰褐色砂質土層 (5~10cm大の土丹と炭化物を含む)
51. 黄褐色砂質土層 (炭化物を含む)
52. 暗褐色砂質土層 (炭化物少量含む)
53. 黄褐色砂質土層 (5~10cm大の土丹・炭化物・貝殻を含む) 溝1覆土
54. 黄褐色砂質土層 (炭化物と拳大土丹を含む)
55. 茶褐色砂質土層 (炭化物を含み、拳大土丹が詰まる)
56. 黒褐色砂質土層 (20cm大の土丹と炭化物を多く含む、土丹粒・かわらけも含む) P22
57. 黒褐色砂質土層 (炭化物と砂をマール状に含む)
58. 灰褐色砂質土層 (炭化物・土丹・貝殻を含む)
59. 灰褐色粘質砂層 (炭化物・拳大の土丹を含む)
60. 灰褐色砂質土層 (炭化物・土丹粒を含む)

図6 3面全測図・最終トレンチ平面図

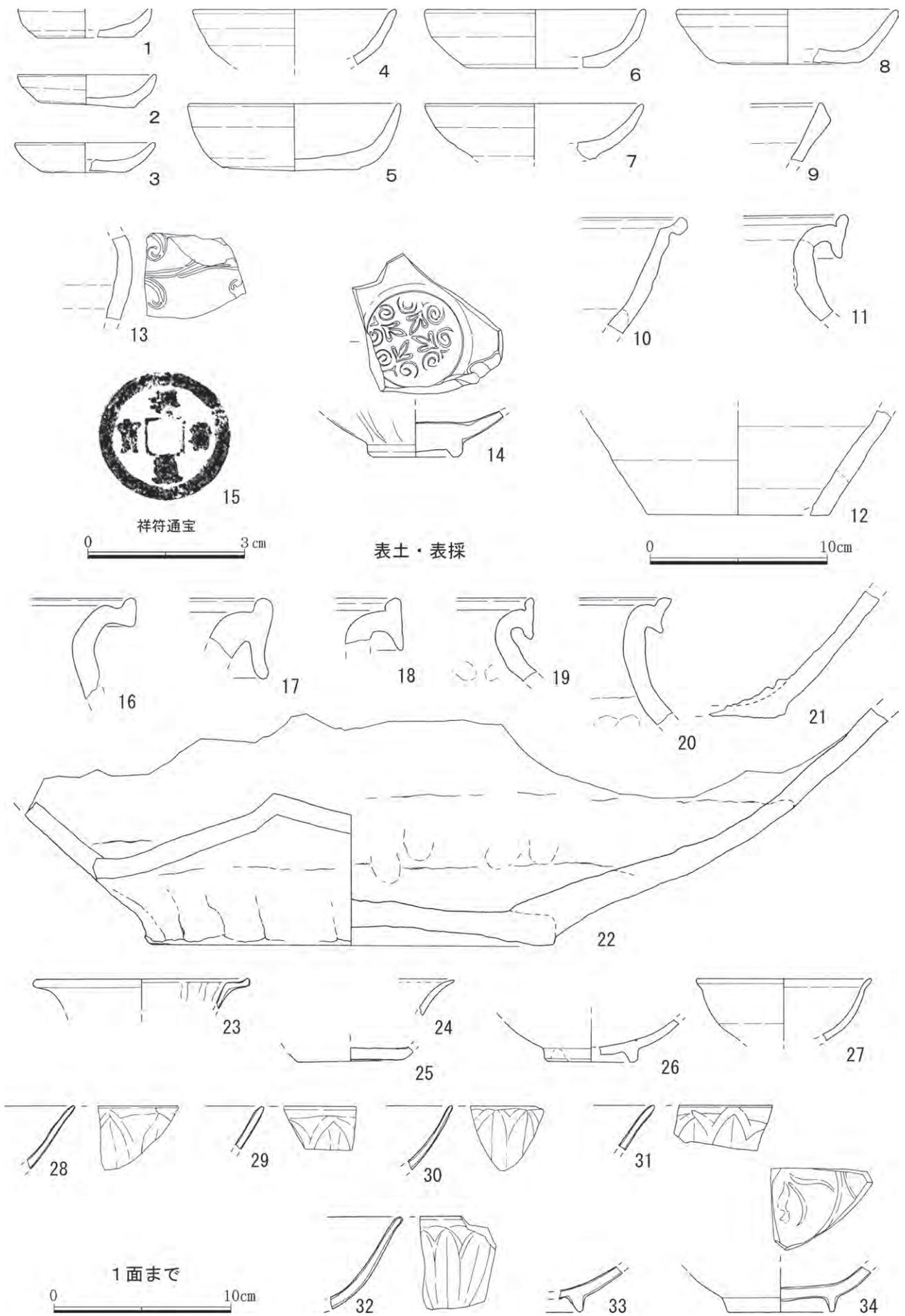


図7 表土・表採、1面までの遺物

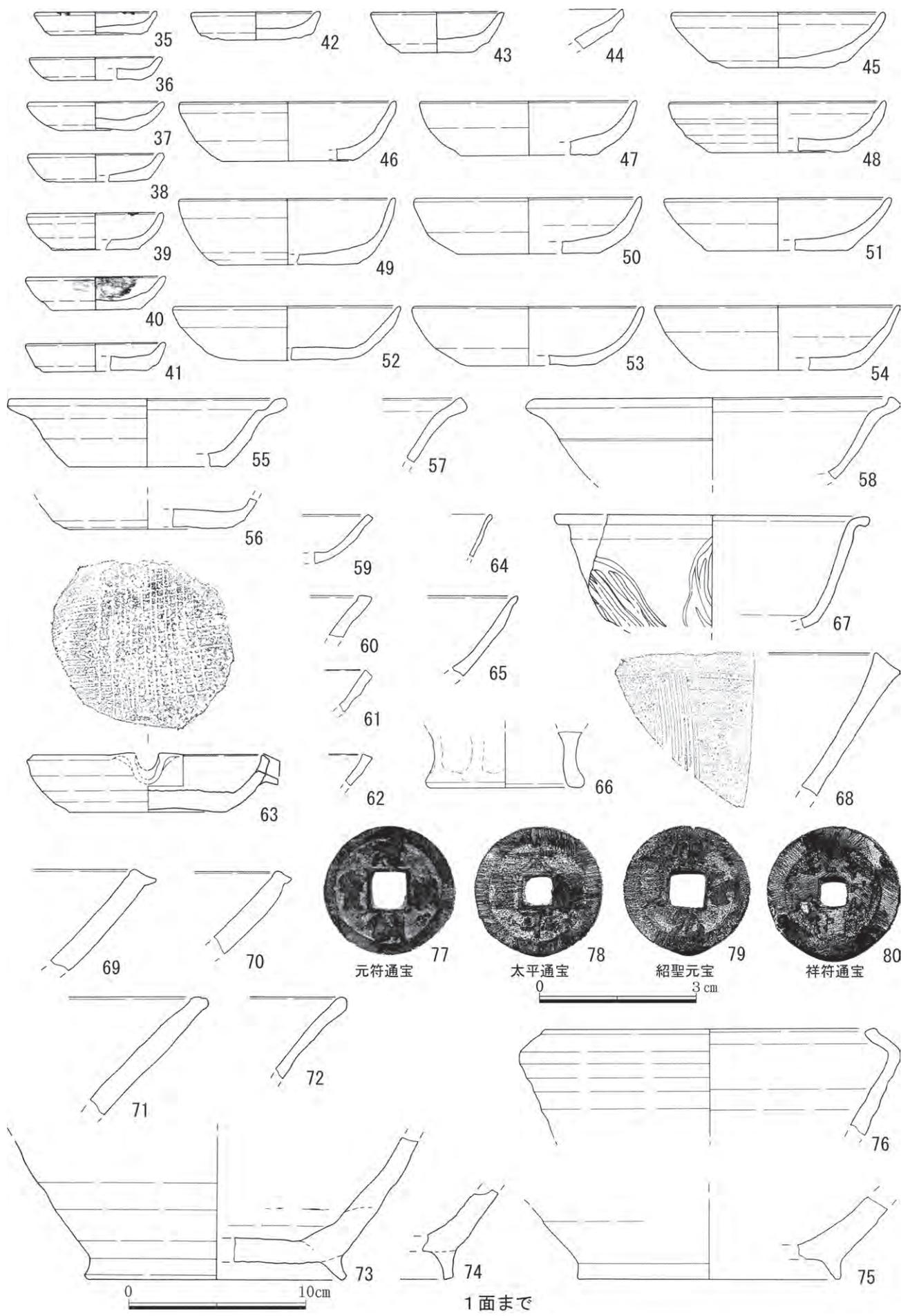


図8 1面までの遺物

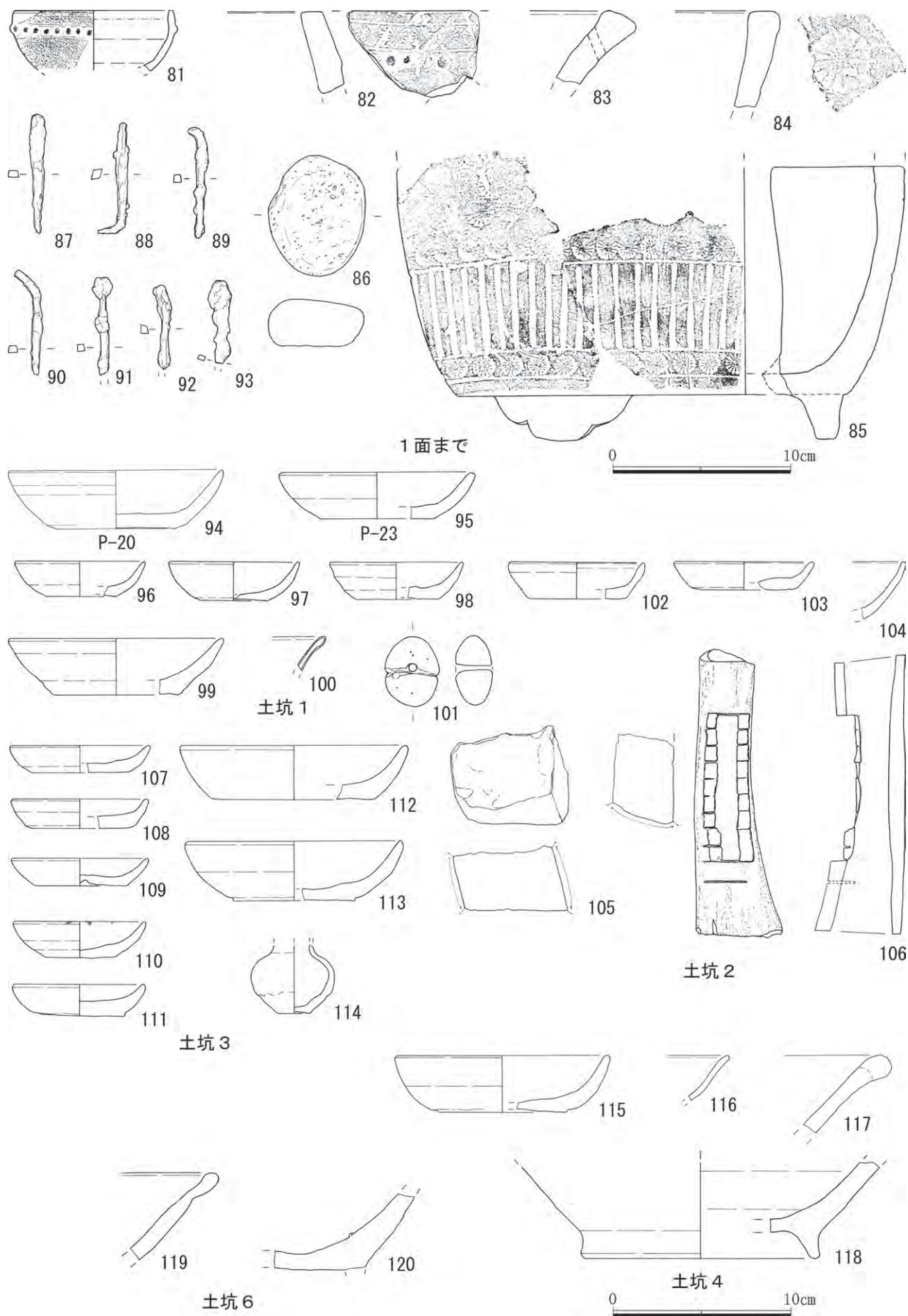


図9 1面まで、1面遺構の遺物

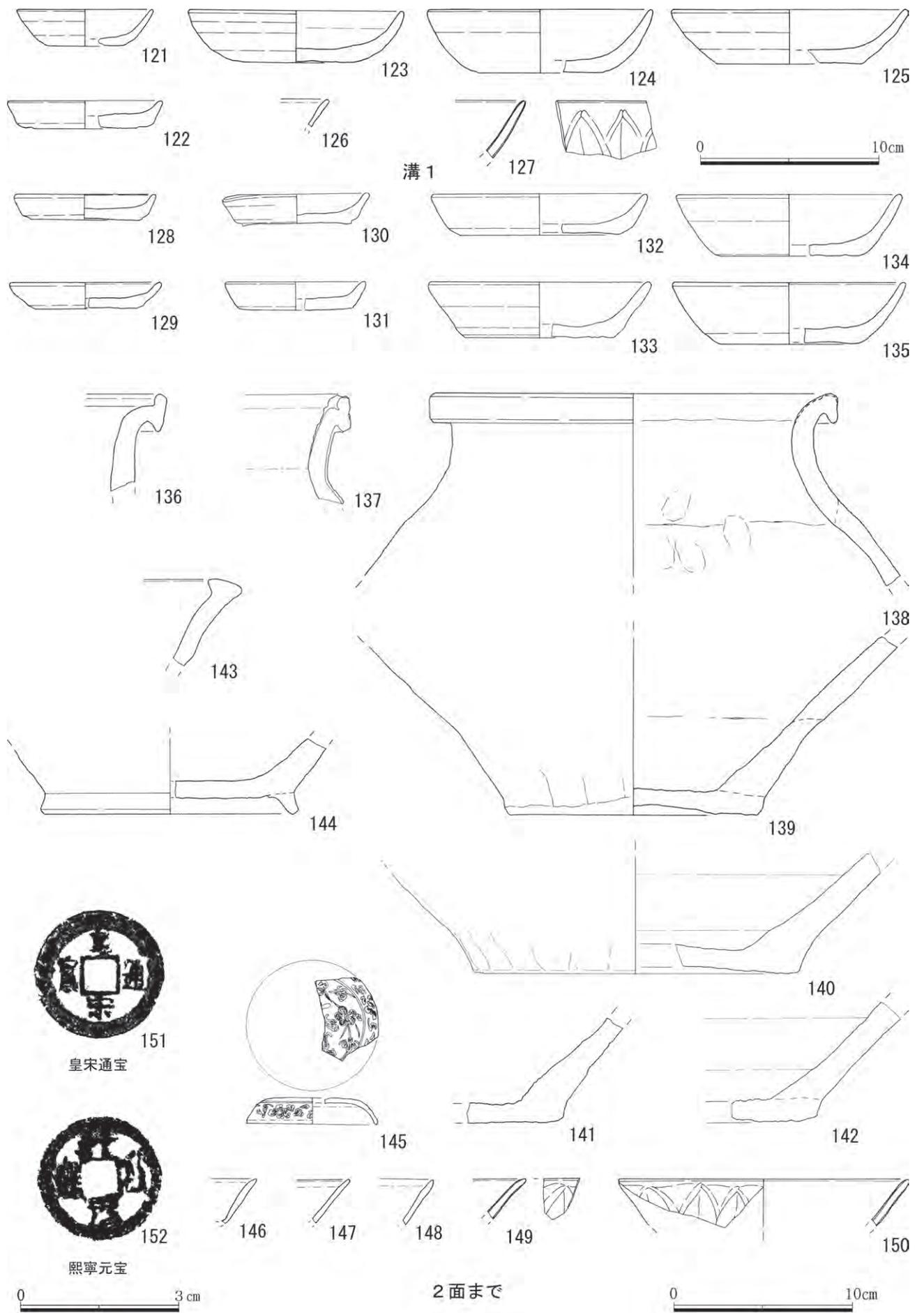
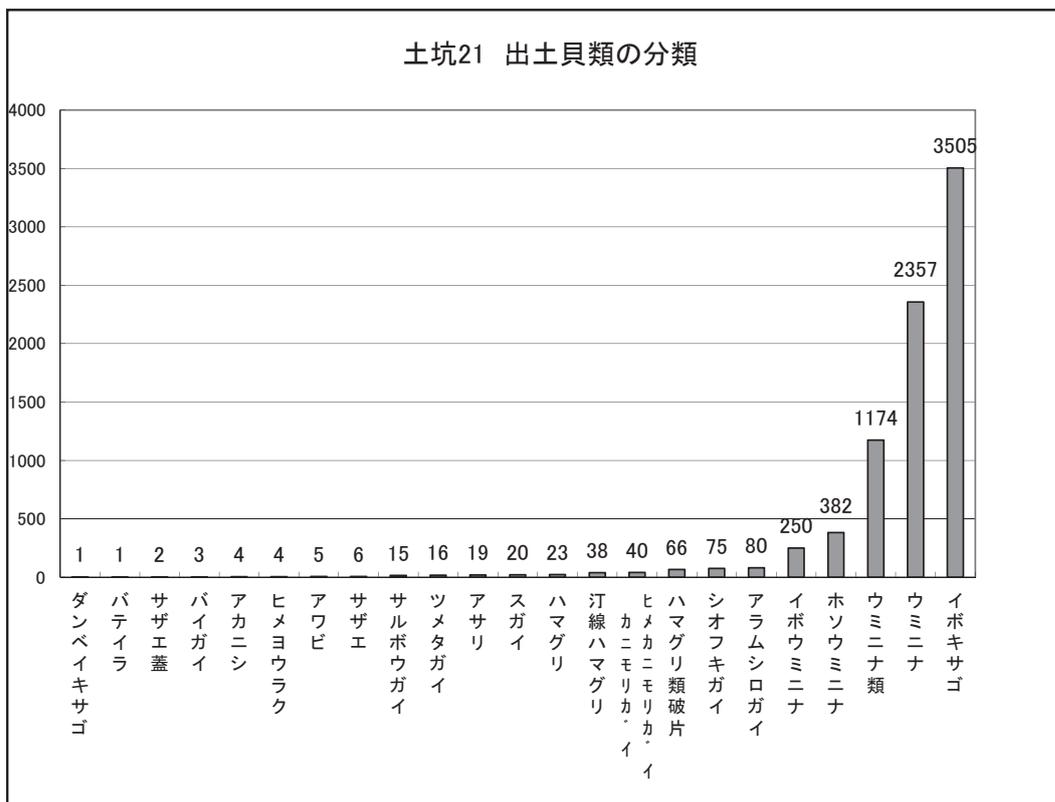
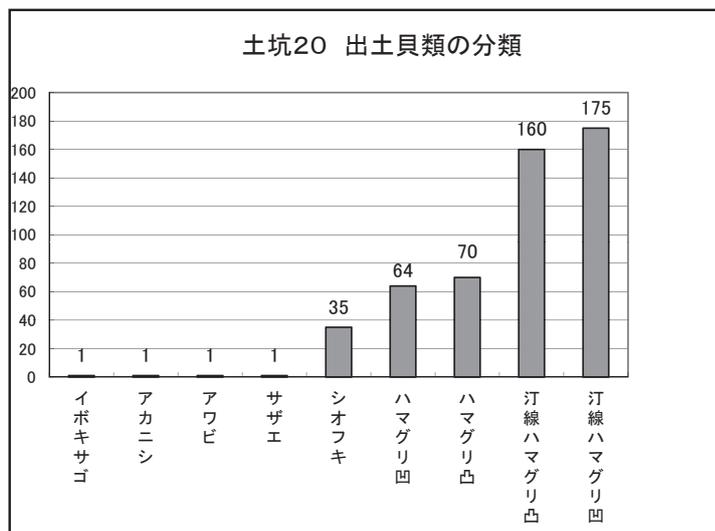


図 10 1面遺構、2面までの遺物

を文永元年（1264）7月15日銘の梵鐘が手がかりと考えるならば、2面時期の後に長谷小路が開通した可能性が考えられる。

土坑（図版 16～18、土坑 20・21 出土貝類の分類表）

2面では土坑が8穴確認された。器壁が厚ぼったい糸切り成形かわらけの他、常滑三耳壺、常滑玉縁口縁小壺、銭等が出土。年代観は道路面の下出土遺物と同じである。土坑20（図版16）からは貝類がまとまって計251個出土した。二枚貝のチョウセンハマグリ、ハマグリ、シオフキガイがほとんどで、他にサザエ、アワビ、アカニシ、イボキサゴが各1点ずつみられた。食用後に殻をまとめて遺棄したと考えられる。土坑21（図版17・18）からさらに多くの貝が出土している。総数8086個の貝類が出土し、95%が小型巻貝のイボキサゴ、ウミナナ類、アラムシロガイが占めていた。食用にしていたのだろうか。他にサザエ、アワビ、アカニシ、バテイラ、サルボウガイ、ハマグリ、チョウセンハマグリ、アサリ、バイガイ等が出土している。



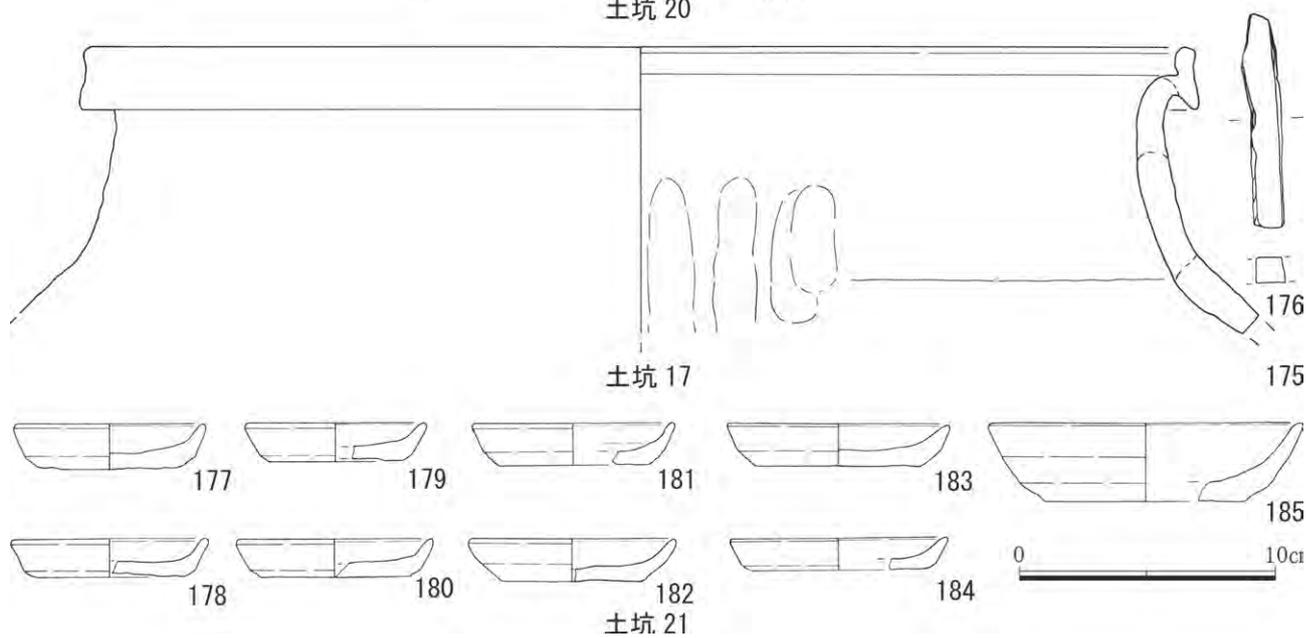
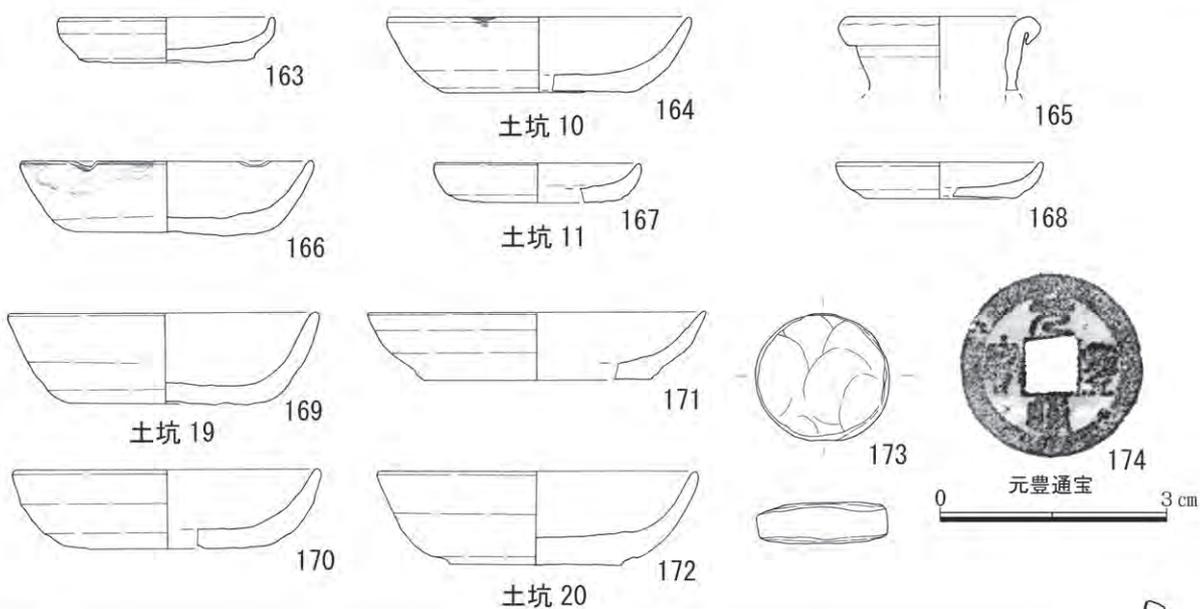
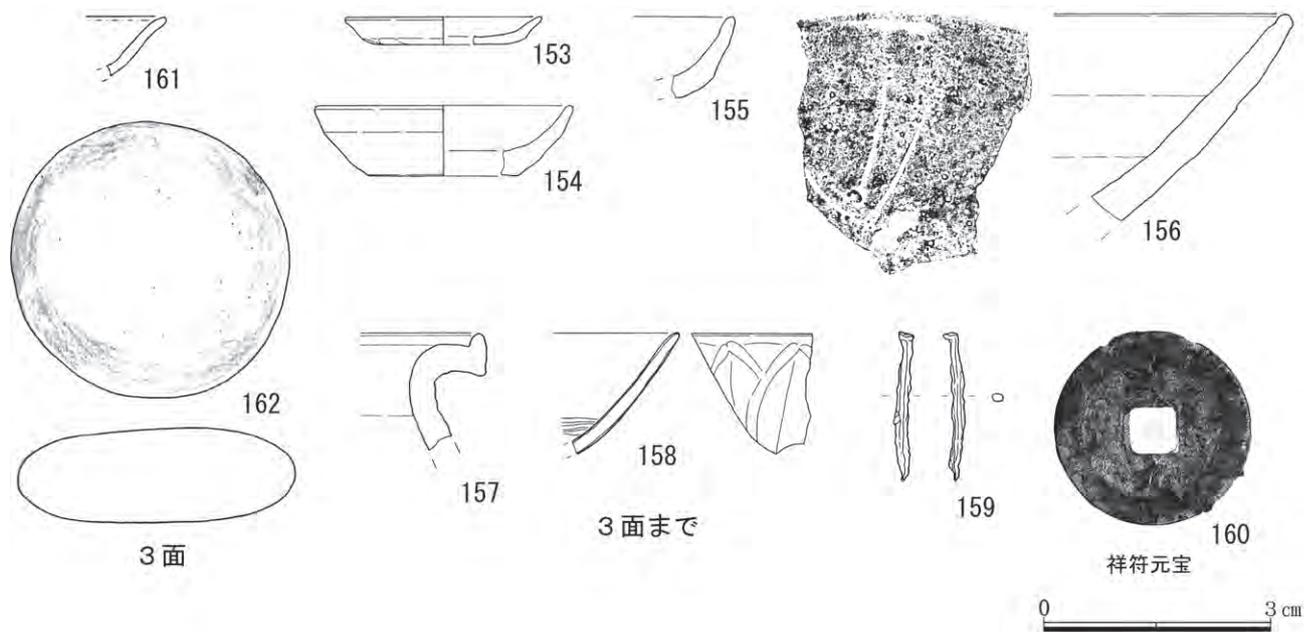


図 11 2面まで、2面遺構の遺物

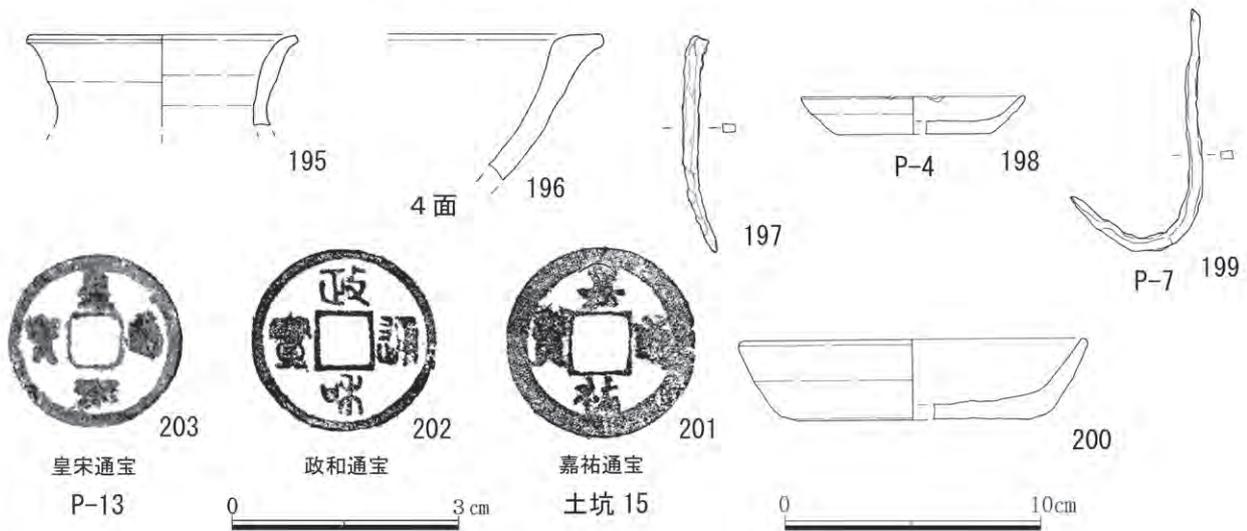
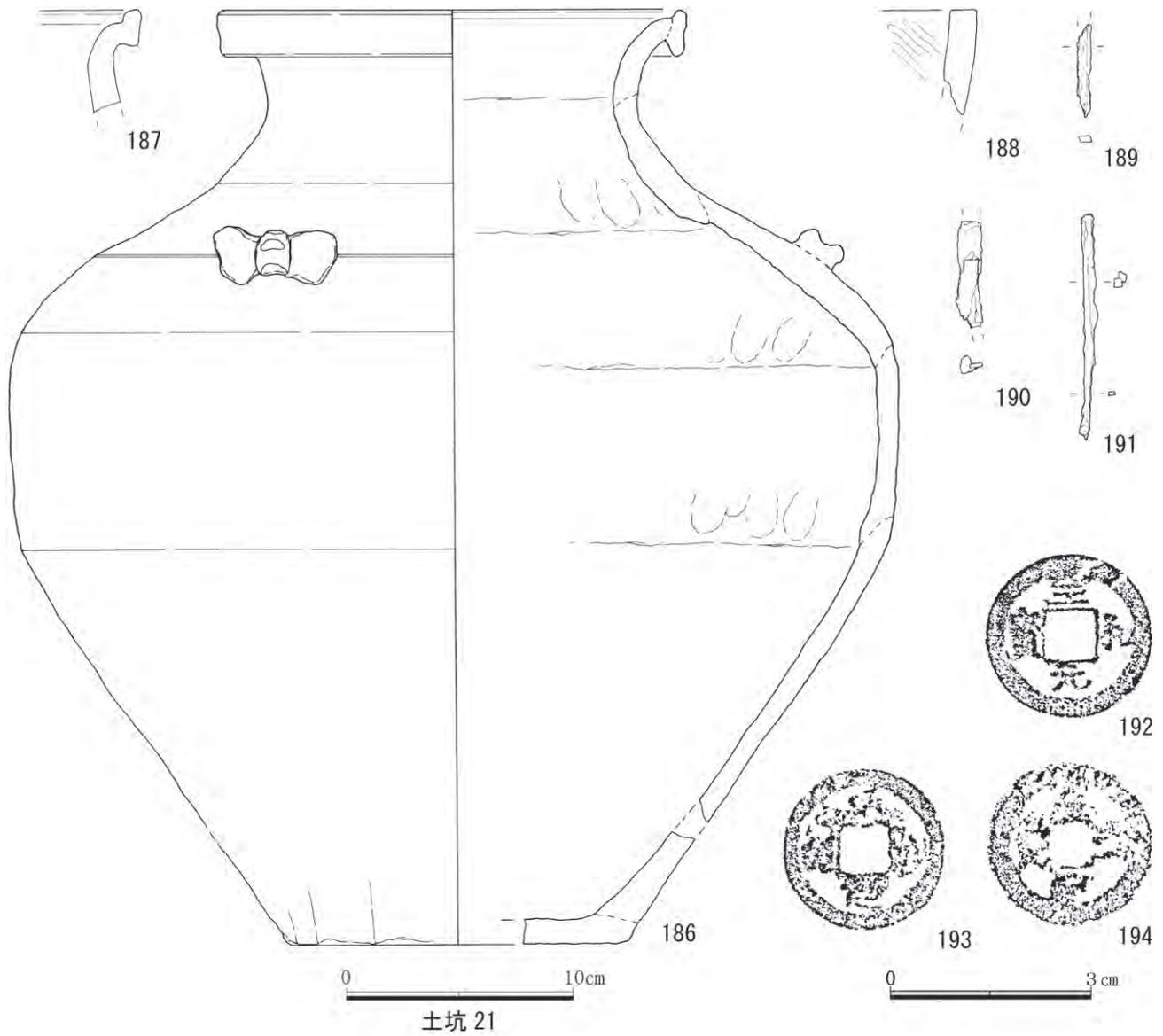


図 12 2面遺構、3面. 3面遺構の遺物の遺物

第3節 第3面の遺構と遺物（図6、図12、図版7・8、図版15）

土坑と柱穴

土坑が6穴、柱穴は19穴確認されたが建物にするには規則性がない。遺物の量も多くなく、かわらけ、渥美小壺片、火鉢、銭が数点出土したのみである。

第4節 最終トレンチ（図6、図版9）

3面の調査終了後に、幅1m、長さ2mのトレンチを設定し掘り下げた。所謂中世地山の黄灰色砂層を掘り下げたが、遺構・遺物の出土はなかった。

第三章 まとめ

当長谷小路周辺遺跡（由比ヶ浜三丁目254番1地点）では、道路遺構・溝・土坑・柱穴が発見された。調査地の北辺で東西方向に延びる道路遺構が検出確認された。現在の由比ヶ浜通り（国道134号線）の六地蔵より西を『鎌倉市史』では長谷小路と想定し、遺跡区分けでも由比ヶ浜通り周辺を長谷小路周辺遺跡としていることからこれに習うこととした。

今回、検出確認した道路遺構はまさに長谷小路の道筋に当たるものと考えられる。道路の構造は、10～30cm大の土丹と砂を交互に積み叩き締めたもので、幾度も補修を重ねた様子が伺える。併せて南端でも別の道路面と側溝と考えられる溝1が検出された。この道筋は調査地の南側を南西方向、塔ノ辻から分かれ稲瀬川河口に向かって延びる現市道に沿っていることから、六地蔵の西側から始まり塔ノ辻、稲瀬川河口を経て稲村ヶ崎に向かう稲村崎路と推定される。他の長谷小路周辺遺跡（由比ヶ浜三丁目258番1地点・由比ヶ浜三丁目194番40地点）の調査でも同じく稲村崎路と考えられる道路遺構が、塔ノ辻から稲瀬川河口までの間に確認されている。遺跡地は北側を東西に延びる長谷小路、南側を海に向かう稲村崎路の交わる塔ノ辻（交差点）の西隣に位置していたことになる。残念なことに長谷小路、稲村崎路ともに、路面が現道路下に潜り込んでしまうため道路幅は不明である。

これまでに調査された長谷小路周辺遺跡は、道路に沿った軸方位を持つ竪穴建物とその裏手にある井戸・土坑といった構成であった（②由比ヶ浜三丁目254番15地点 遺構の軸方位は長谷小路、④由比ヶ浜三丁目258番8地点 遺構の軸方位は長谷小路、⑤由比ヶ浜三丁目258番1地点 遺構の軸方位は稲村崎路、⑥由比ヶ浜三丁目194番40地点 遺構の軸方位は稲村崎路）が、当遺跡内では長谷小路、稲村崎路に挟まれ狭いためか確認された遺構は土坑と柱穴で竪穴建物と井戸は発見されていない。

遺物を概観するならば、1面道路遺構の時期の溝や土坑から出土する遺物のうち常滑甕の口縁部では、縁帯部が上下に伸びきっておらず常滑編年6a型式に相当するものが中心と思われる。ことから年代的に13世紀中葉。かわらけは手捏ね成形のかわらけが、2面から2点出土しているが遺構からの出土はない。糸切り成形のかわらけはいわゆる薄手丸深になりきっていないもので、概ね13世紀代後半から14世紀前葉の年代が与えられる。長谷小路の成立に長谷寺創建が関わるのならば、長谷寺で一番古い梵鐘の文永元年（1264）7月15日銘が手がかりになるのかもしれない。かわらけは常滑の年代より少し新しい印象であるが中心の年代観はほぼ一致する。以上、遺物から見て当遺跡の年代は、13世紀中葉から14世紀前葉が当たるものと考えられる。

図7 表土・表採・1面までの遺物

()は復元法量・単位cm

| 番号 | 出土層位・遺構 | 種別 | 機種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察 |
|-----|---------|-----|----------|--------|------|--------|---|
| -1 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(小) | (7.5) | 1.7 | (5.4) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -2 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(小) | 7.8 | 1.8 | 5.3 | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙褐色 成形:糸切り・スノコ痕 |
| -3 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(小) | (7.9) | 1.7 | (4.9) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 |
| -4 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(大) | (11.3) | - | - | 胎土:雲母・白針・白色粒・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 |
| -5 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(大) | (12.0) | 3.9 | (7.4) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -6 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(大) | (12.4) | 3.4 | (7.8) | 胎土:白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙褐色 成形:糸切り・スノコ痕 |
| -7 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(大) | (12.3) | 3.1 | (7.0) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:口唇内側肥厚 糸切り・スノコ痕 |
| -8 | 表土掘削中 | 土器 | かわらけ(大) | (12.4) | 3.2 | (8.0) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -9 | 表土掘削中 | 陶器 | 東播系 片口鉢 | - | - | - | 胎土:灰褐色 白色微砂 砂多く割れ口ざっくり 口縁部片 口縁三角形 |
| -10 | 表土掘削中 | 陶器 | 瀬戸 折縁鉢 | - | - | - | 胎土:黄灰色 灰釉ハケ塗り 外面下部ヘラケズリ 中Ⅲ期 |
| -11 | 表土掘削中 | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:長石粒多く含む 緑帯上下に拡張 口縁上部に自然釉 常滑編年6b(1250~1275) |
| -12 | 表土掘削中 | 陶器 | 常滑 壺 底部 | - | - | (10.6) | 胎土:明灰色、長石と黒色粒を含む 砂底 やや焼きが甘い |
| -13 | 表土掘削中 | 陶器 | 瀬戸 褐釉壺 | - | - | - | 胎土:灰色精良土 体部片 外面鉄釉 渦巻きと曲線で草花文を描く |
| -14 | 表土掘削中 | 磁器 | 青磁 鎚蓮弁文碗 | - | - | 4.7 | 胎土:淡灰色で堅緻、内底に渦巻きと花卉の劃花文、透明淡緑色の施釉 幅広高台無釉 |
| -15 | 表土掘削中 | 銅製品 | 銭 祥符通寶 | 径2.5 | 3.2g | - | 初鑄年1008 北宋 |
| -16 | 1面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:細かな長石含む精良土 口縁上部に暗緑色の自然釉 常滑編年5(1220~1250) |
| -17 | 1面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:灰色、長石粒を含む 緑帯下部に大きく拡張 常滑編年6b(1275~1300) |
| -18 | 1面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:淡灰色、砂が多くザックリした割れ口 帯部上下に拡張 常滑編年6b |
| -19 | 1面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:暗灰色、長石粒を含む 緑帯部上下に拡張 常滑編年6b |
| -20 | 1面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:灰色、長石粒目立つ 外面陽田釉 緑帯下にやや伸びる 常滑編年6a |
| -21 | 1面まで | 陶器 | 常滑 甕 底部 | - | - | - | 胎土:暗灰色、長石粒を含む 砂底 内底面に暗緑色の自然釉 |
| -22 | 1面まで | 陶器 | 常滑 甕 底部 | - | - | 23.0 | 胎土:暗灰色、長石粒を多く含む 砂底 焼きひずみ大きい |
| -23 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 天目茶碗 | 9.8 | - | - | 胎土:淡灰色できめ細かく堅緻、内外面に緑灰色~茶灰色の自然釉 |
| -24 | 1面まで | 磁器 | 白磁 碗 | - | - | 5.0 | 胎土:薄青みを帯びた透明釉、体部と内底面の境に一条の沈線が巡る |
| -25 | 1面まで | 磁器 | 白磁 口元皿 | - | - | - | 胎土:灰白色で精良土、乳灰色の釉、口縁部釉剥ぎ取り |
| -26 | 1面まで | 磁器 | 白磁 口元皿 | - | - | 6.0 | 胎土:白色で堅緻、内外面と底部まで薄い乳灰色の釉 |
| -27 | 1面まで | 磁器 | 青磁 折縁鉢 | 12.0 | - | - | 胎土:灰白色で堅緻、青緑がかった釉 |
| -28 | 1面まで | 磁器 | 青磁 鎚蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:灰色で堅緻、鎚蓮弁文、内外面透明な淡緑色の施釉 |
| -29 | 1面まで | 磁器 | 青磁 鎚蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:灰白色で堅緻、鎚蓮弁文、内外面淡緑色の施釉 |
| -30 | 1面まで | 磁器 | 青磁 鎚蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:灰白色で堅緻、狭い鎚蓮弁文、内外面淡緑色の施釉、小型品か |
| -31 | 1面まで | 磁器 | 青磁 鎚蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:淡灰色で堅緻、鎚蓮弁文、内外面透明暗緑色の施釉 |
| -32 | 1面まで | 磁器 | 青磁 鎚蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:淡灰色で堅緻、狭い鎚蓮弁文、内外面と高台内側まで緑褐色の厚い施釉 |
| -33 | 1面まで | 磁器 | 青磁 鎚蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:灰白色で堅緻、狭い鎚蓮弁文、内外面と高台内側まで淡緑色の施釉 |
| -34 | 1面まで | 磁器 | 青磁 劃花文碗 | - | - | 6.0 | 胎土:灰白色で堅緻、内面に劃花文、内外面と高台内側まで淡緑色の施釉 |

図8 1面までの遺物

()は復元法量・単位cm

| 番号 | 出土層位・遺構 | 種別 | 機種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察 |
|-----|---------|----|------------|--------|-----|-------|---|
| -35 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | 6.8 | 1.3 | 5.4 | 胎土:黒色粒 色調:茶褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -36 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.4) | 1.3 | (5.2) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:淡橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -37 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 1.6 | (4.2) | 胎土:白針・精良土 色調:淡橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -38 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 1.6 | (5.8) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -39 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 2.1 | (5.0) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -40 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.8) | 1.9 | (5.0) | 胎土:白針・精良土 色調:暗褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -41 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.8) | 1.6 | (6.0) | 胎土:白針・精良土:明褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -42 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.2) | 1.6 | (6.0) | 胎土:クサリ礫 きめ細かく精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -43 | 1面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.4) | 2.3 | 4.2 | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -44 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大)手捏ね | - | - | - | 胎土:きめ細かく堅緻 色調:明褐色 成形:手捏ね 指頭痕 口唇のナデシャープ12c後葉 |
| -45 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | 12.0 | 3.2 | 6.4 | 胎土:細かい雲母・精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側肥厚 |
| -46 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.2) | 3.4 | (7.8) | 胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -47 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.2) | 3.1 | (8.0) | 胎土:雲母・白針 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚 |
| -48 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.2) | 2.9 | (8.0) | 胎土:クサリ礫 砂多い 色調:淡赤褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚 |
| -49 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.2) | 3.8 | (8.0) | 胎土:細かい雲母 精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -50 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.8) | 3.2 | (8.2) | 胎土:細かい黒色粒、クサリ礫含む 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -51 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.8) | 3.0 | (8.0) | 胎土:精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚 |
| -52 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.8) | 3.1 | (8.0) | 胎土:精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側肥厚 |
| -53 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.4) | 3.4 | (7.8) | 胎土:雲母・クサリ礫・粉白い精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -54 | 1面まで | 土器 | かわらけ(大) | (13.8) | 3.7 | (8.8) | 胎土:精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚 |
| -55 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 折縁中皿 | (15.2) | 3.9 | (9.0) | 胎土:灰白色 精良土 色調:薄い緑灰色 成形:古瀬戸編年中Ⅰ期(13c末~14c初) |
| -56 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 折縁中皿 | - | - | (9.0) | 胎土:灰白色 精良土 色調:薄緑灰色 成形:糸切り ハケ塗り |
| -57 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 折縁中皿 | - | - | - | 胎土:淡黄灰色 色調:透明緑灰色釉 成形:ツケガケ |
| -58 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 折縁中皿 | (20.2) | - | - | 胎土:淡灰白色 精良土 色調:透明薄緑灰色 成形:内外面ヨコナデ 外面に一条の沈線 古瀬戸編年中Ⅰ期 |
| -59 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 卸皿 | - | - | - | 胎土:淡灰色 精良土 色調:釉剥がれ落ちる 成形:外面ヘラケズリ 古瀬戸編年中Ⅱ期(14c前葉) |
| -60 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 洗 | - | - | - | 胎土:灰白色 精良土 色調:緑灰色透明釉 成形:口唇内側やや肥厚 古瀬戸編年前Ⅲ期(13c中葉) |
| -61 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 卸皿 | - | - | - | 胎土:淡灰褐色 精良土 色調:透明緑灰色釉 成形:ハケ塗り 古瀬戸編年中Ⅰ期 |
| -62 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 卸皿 | - | - | - | 胎土:淡灰色 精良土 色調:乳褐色 成形:口唇部シャープ 古瀬戸編年中Ⅱ期 |
| -63 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 卸皿 | 13.0 | 3.3 | 9.0 | 胎土:灰白色 精良土 色調:淡緑色釉 成形:底面糸切り、内底面に卸目 端部丁寧なナデ 古瀬戸編年中 |
| -64 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 入子 | - | - | - | 胎土:淡灰色 精良土 色調:無釉 成形:内外面ナデ 古瀬戸中Ⅱ期 |
| -65 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 平碗 | - | - | - | 胎土:淡黄灰色 精良土 色調:薄緑灰色釉 成形:釉ハケ塗り 古瀬戸編年中Ⅲ期(14c中葉) |
| -66 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 仏華瓶底部 | - | - | 8.6 | 胎土:灰白色 精良土 暗緑灰色~黒褐色の釉 底部内側は無釉 古瀬戸編年中Ⅰ期 |
| -67 | 1面まで | 陶器 | 瀬戸 柄付片口 | (17.2) | - | - | 胎土:灰白色 精良土 色調:薄い緑灰色 成形:口唇外の開く 底部以外施釉 体部に葉文様 古瀬戸編年 |
| -68 | 1面まで | 陶器 | 備前 播鉢 | - | - | - | 胎土:きめ細かく精良 色調:淡赤灰色 成形:口端部シャープに揃み上がる 卸目9条 備前編年中世3期a(14 |

遺物観察表 1

| | | | | | | | |
|-----|------|-----|---------|--------|------|--------|---|
| -69 | 1面まで | 陶器 | 常滑Ⅱ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:長石粒及び砂を多く含む 色調:淡赤褐色 成形:内外面ナデ 口端部外面強いナデ 常滑編年9(1400) |
| -70 | 1面まで | 陶器 | 常滑Ⅱ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:長石粒含む 堅緻 色調:濁赤褐色 成形:内外面ナデ 常滑編年8(1350~1400) |
| -71 | 1面まで | 陶器 | 常滑Ⅱ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:長石粒含む堅緻 色調:暗灰色 成形:内外面ナデ 常滑編年6a |
| -72 | 1面まで | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:長石粒含む 色調:淡灰色 成形:常滑編年6a |
| -73 | 1面まで | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | (14.4) | 胎土:白色粒、砂多く含む 色調:灰色 成形:体部外面底部ヘラケズリ 貼付高台 常滑編年6aか |
| -74 | 1面まで | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:砂粒多くザツクリした素地 色調:淡灰色 成形:外面底部ヘラケズリ 貼付高台 常滑編年6aか |
| -75 | 1面まで | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | (14.4) | 胎土:白色粒、砂多く含む 色調:灰色 成形:体部外面底部ヘラケズリ 貼付高台 |
| -76 | 1面まで | 陶器 | 常滑 無頸壺 | (18.8) | - | - | 胎土:長石粒及び赤色粒含む 色調:暗灰色 成形:内外面ナデ 常滑編年6a |
| -77 | 1面まで | 銅製品 | 銭 元符通寶 | 径2.5 | 3.7g | | 初鑄年1098 北宋 |
| -78 | 1面まで | 銅製品 | 銭 太平通寶 | 径2.5 | 3.7g | | 初鑄年976 北宋 |
| -79 | 1面まで | 銅製品 | 銭 紹聖通寶 | 径2.5 | 3.0g | | 初鑄年1094 北宋 |
| -80 | 1面まで | 銅製品 | 銭 祥符通寶 | 径2.5 | 3.3g | | 初鑄年1008 北宋 |

図9 1面まで・1面遺構の出土遺物

()は復元法量・単位cm

| 番号 | 出土層位・遺構 | 種別 | 機種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察 |
|------|---------|------|---------|--------|--------|--------|--|
| -81 | 1面まで | 土器 | 印花文小香炉 | (9.0) | | | 口縁外側に沈線と連珠文貼付、体部下半に小印花文 胎土は赤褐色、きめ細かい |
| -82 | 1面まで | 土器 | 火鉢ⅣA類 | - | - | - | 瓦質、口縁部片内外面ヘラ磨き、器表面は黒色磨き、2条の沈線間に菊花文スタンプ、平行して連珠文貼付 |
| -83 | 1面まで | 土器 | 火鉢ⅠC類 | - | - | - | 土器質、口縁部はやや外反する、胎土は砂が少なく硬質 |
| -84 | 1面まで | 土器 | 火鉢Ⅲ類 | - | - | - | 土器質、口縁外側に径4cm程の菊花文、胎土は赤みを帯びた軟質、表面磨き |
| -85 | 1面まで | 土器 | 火鉢ⅣA類 | (28.8) | 15.6 | (21.6) | 瓦質短楕圓、器表面は黒色磨き、沈線に印花文スタンプと連珠文貼付 |
| -86 | 1面まで | 軽石 | 浮子 | 長6.9 | 幅5.4 | 厚2.7 | 両端面に叩き痕あり 重さ25.7g |
| -87 | 1面まで | 鉄製品 | 釘 | 長6.9 | 幅0.7 | 8.5g | 断面四角形 |
| -88 | 1面まで | 鉄製品 | 釘 | 長6.4 | 幅0.7 | 2.6g | 断面四角形 |
| -89 | 1面まで | 鉄製品 | 釘 | 長6.4 | 幅0.5 | 3.4g | 断面四角形 |
| -90 | 1面まで | 鉄製品 | 釘 | 長6.0 | 幅0.5 | 4.2g | 断面四角形 |
| -91 | 1面まで | 鉄製品 | 釘 | 長5.6 | 幅0.5 | 3.1g | 断面四角形 |
| -92 | 1面まで | 鉄製品 | 釘 | 長4.8 | 幅0.4 | 3.3g | 断面四角形 |
| -93 | 1面まで | 鉄製品 | 釘 | 長4.8 | 幅0.4 | 4.2g | 螺旋状 |
| -94 | 1面P20 | 土器 | かわらけ(大) | (12.0) | 3.3 | 6.6 | 胎土:軟質 きめ細かい素地にクサリ礫粒が混じる 色調:赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -95 | 1面P23 | 土器 | かわらけ(大) | (10.6) | 2.7 | (6.4) | 胎土:クサリ礫、土丹粒、雲母少量含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -96 | 1面土坑1 | 土器 | かわらけ(小) | (7.3) | 2.0 | (4.0) | 胎土:きめ細かい精良土 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -97 | 1面土坑1 | 土器 | かわらけ(小) | (7.3) | 2.2 | (4.2) | 胎土:クサリ礫含む細かな砂多い 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -98 | 1面土坑1 | 土器 | かわらけ(小) | (7.5) | 2.1 | (4.6) | 胎土:細かな雲母含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -99 | 1面土坑1 | 土器 | かわらけ(大) | (12.1) | 3.2 | (7.0) | 胎土:クサリ礫と砂粒を多く含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -100 | 1面土坑1 | 磁器 | 青磁 蓮弁文碗 | - | - | - | 口縁部片 胎土が赤褐色に変色 二次焼成を受けている |
| -101 | 1面土坑1 | 石製品 | 軽石 浮子 | 長3.9 | 幅3.0 | 厚2.0 | 体部中央に1条の一周する刻まれた溝線と中央に穿孔 紐で網に結びつけるためのもの 重さ6.1g |
| -102 | 1面土坑2 | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 2.1 | (5.4) | 胎土:細かなクサリ礫含む細かな素地 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -103 | 1面土坑2 | 土器 | かわらけ(小) | (7.8) | 1.6 | (6.0) | 胎土:細かな砂が多い 色調:淡茶灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -104 | 1面土坑2 | 土器 | かわらけ(大) | - | - | - | 胎土:細かな砂が多い 色調:赤褐色 成形:糸切り・器壁薄い 内底ナデ有り |
| -105 | 1面土坑2 | 石製品 | 砥石 中砥 | 長(5.2) | 幅(6.6) | 厚(3.7) | 色調:マール状の赤灰色 天草産 |
| -106 | 1面土坑2 | 自然遺物 | 骨 加工品 | 長16.3 | 幅3.1 | 厚1.5 | 鯨により9mm幅で裁断、骨材としてU字形の骨片を切り出した残り |
| -107 | 1面土坑3 | 土器 | かわらけ(小) | (7.8) | 1.6 | (5.8) | 胎土:微細な雲母多く含む 色調:淡茶灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -108 | 1面土坑3 | 土器 | かわらけ(小) | (7.5) | 1.7 | (5.4) | 胎土:白針、クサリ礫を含む 色調:赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -109 | 1面土坑3 | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 1.6 | (5.2) | 胎土:きめ細かい精良土 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -110 | 1面土坑3 | 土器 | かわらけ(小) | (7.3) | 2.1 | (4.0) | 胎土:微細な雲母、クサリ礫を含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 燈明皿 |
| -111 | 1面土坑3 | 土器 | かわらけ(小) | 7.3 | 1.8 | 5.1 | 胎土:決め細かく黒色砂多く含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 燈明皿 |
| -112 | 1面土坑3 | 土器 | かわらけ(大) | (12.7) | 3.1 | (9.3) | 胎土:精良な素地で焼きは堅緻 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -113 | 1面土坑3 | 土器 | かわらけ(大) | (12.1) | 3.4 | (6.9) | 胎土:きめ細かく多いが焼きは堅緻 色調:茶褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -114 | 1面土坑3 | 陶器 | 瀬戸 褐釉小壺 | - | - | 1.8 | 胎土:きめ細かく精良 色調:淡茶灰色に焦げ茶～茶色の鉄釉 瀬戸編年中二期(14c中葉) |
| -115 | 1面土坑4 | 土器 | かわらけ(大) | (11.9) | 3.3 | (7.2) | 胎土:きめ細かく堅緻 色調:淡灰褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り |
| -116 | 1面土坑4 | 磁器 | 白磁 口瓦皿 | - | - | - | 胎土:精良土 色調:乳白色に透明な釉 |
| -117 | 1面土坑4 | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:長石粒多く含む 堅緻 口唇部に一条の沈線 色調:灰色 常滑編年6a(1250~1275) |
| -118 | 1面土坑4 | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | (13.0) | 胎土:2mm大の砂粒を多く含む 色調:淡灰色 成形:体部下半ヘラケズリ 常滑編年6a |
| -119 | 1面土坑6 | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:きめ細かく堅緻 色調:暗灰色 常滑編年6a |
| -120 | 1面土坑6 | 陶器 | 常滑Ⅰ類片口鉢 | - | - | - | 胎土:2mm大の砂粒を多く含む 色調:淡灰色 成形:体部下半ヘラケズリ 内面自然釉 高台剥離 |

図10 1面遺構・2面までの遺物

()は復元法量・単位cm

| 番号 | 出土層位・遺構 | 種別 | 機種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察 |
|------|---------|----|---------|--------|-----|-------|---|
| -121 | 1面溝1 | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 2.1 | (4.2) | 胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -122 | 1面溝1 | 土器 | かわらけ(小) | (8.6) | 1.6 | (7.0) | 胎土:白針、雲母、クサリ礫を含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 底部径大きく口端部断面三 |
| -123 | 1面溝1 | 土器 | かわらけ(大) | (12.0) | 2.9 | 7.4 | 胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -124 | 1面溝1 | 土器 | かわらけ(大) | (12.6) | 3.6 | (7.0) | 胎土:白針、雲母含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -125 | 1面溝1 | 土器 | かわらけ(大) | (13.2) | 3.1 | (8.2) | 胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -126 | 1面溝1 | 磁器 | 白磁 口瓦皿 | - | - | - | 胎土:灰白色で精良土、乳白色透明の釉、口縁部釉剥ぎ取り |
| -127 | 1面溝1 | 磁器 | 青磁 蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:灰白色で堅緻、蓮弁文、内外面透明な淡緑色の施釉 |
| -128 | 2面まで | 土器 | かわらけ(小) | 7.8 | 1.5 | 6.2 | 胎土:白針、雲母、土丹粒に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -129 | 2面まで | 土器 | かわらけ(小) | (8.4) | 1.5 | (6.6) | 胎土:白針、雲母、クサリ礫に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -130 | 2面まで | 土器 | かわらけ(小) | 8.1 | 1.7 | 6.2 | 胎土:白針、雲母と砂粒を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -131 | 2面まで | 土器 | かわらけ(小) | (7.8) | 1.6 | (6.4) | 胎土:白針、雲母と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -132 | 2面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.1) | 2.0 | (8.9) | 胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -133 | 2面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.4) | 3.2 | (8.3) | 胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -134 | 2面まで | 土器 | かわらけ(大) | (12.6) | 3.5 | (8.4) | 胎土:白針と砂粒を含む 色調:淡赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -135 | 2面まで | 土器 | かわらけ(大) | (13.0) | 3.5 | (8.0) | 胎土:白針、雲母、クサリ礫、土丹粒を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |

遺物観察表2

| | | | | | | | |
|------|------|-----|----------|--------|------|--------|---|
| -136 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:長石、礫粒含む 色調:灰褐色に黄緑色の自然釉 常滑編年6a(1250~1275) |
| -137 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:2mmほどの長石、砂を含む 色調:灰色 淡黄~灰緑色の自然釉厚い 常滑編年6a |
| -138 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | (22.2) | - | - | 胎土:長石、石英、礫粒多く含む 色調:灰色に褐色~緑灰色の自然釉 常滑編年6a |
| -139 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 底部 | - | - | (14.0) | 胎土:長石、石英、礫粒多く含む 色調:褐色~赤褐色の自然釉 |
| -140 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 底部 | - | - | (18.2) | 胎土:長石粒、黒色粒含む 色調:明黄褐色 底部砂底 内底面に暗灰緑色の自然釉 |
| -141 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 底部 | - | - | - | 胎土:長石、石英、礫粒含む 色調:茶色 内底面に緑茶色の自然釉 |
| -142 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 底部 | - | - | - | 胎土:長石、黒色粒を含む 色調:淡赤褐色 内底面に暗緑色の自然釉 |
| -143 | 2面まで | 瓦器 | 火鉢 IA類 | - | - | - | 器壁が開き、口縁断面が釘頭状、胎土は砂が多いが焼成は硬め |
| -144 | 2面まで | 陶器 | 常滑 I類片口鉢 | - | - | (14.0) | 胎土:長石、石英礫粒含む 色調:灰色 |
| -145 | 2面まで | 磁器 | 青白磁 合子蓋 | 7.2 | 1.5 | - | 胎土:灰白色で精良土 透明な青緑色の釉 外面全体に花と葉を陽刻 |
| -146 | 2面まで | 磁器 | 白磁 口元皿 | - | - | - | 胎土:乳灰白色で精良土、透明な釉、口縁部釉剥ぎ取り |
| -147 | 2面まで | 磁器 | 白磁 口元皿 | - | - | - | 胎土:乳白色で精良土、乳灰色不透明の釉、口縁部釉剥ぎ取り |
| -148 | 2面まで | 磁器 | 白磁 口元皿 | - | - | - | 胎土:灰白色で精良土、灰白色半透明の釉、口縁部釉剥ぎ取り |
| -149 | 2面まで | 磁器 | 青磁 鑄蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:灰白色で堅緻、鑄蓮弁文、内外面透明な青緑色の施釉 |
| -150 | 2面まで | 磁器 | 青磁 鑄蓮弁文碗 | (16.2) | - | - | 胎土:灰白色で堅緻、鑄蓮弁文、内外面透明な灰緑色半透明な釉 |
| -151 | 2面まで | 銅製品 | 銭 皇宋通寶 | 径2.5 | 3.6g | - | 初鑄年1038年 北宋 |
| -152 | 2面まで | 銅製品 | 銭 熙寧元寶 | 径2.5 | 2.8g | - | 初鑄年1068年 北宋 |

図11 2面まで・2面遺構の遺物

()は復元法量・単位cm

| 番号 | 出土層位・遺構 | 種別 | 機種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察 |
|------|---------|-----|------------|--------|------|-------|--|
| -153 | 2面まで | 土器 | かわらけ(小)手捏ね | (7.7) | 1.1 | - | 胎土:黒色粒を含む精良土 色調:赤褐色 薄手 手捏ね成形 在地産では無いか |
| -154 | 2面まで | 土器 | かわらけ(大) | (10.0) | 2.8 | (6.1) | 胎土:白針、雲母含む精良土 色調:淡褐色 糸切り |
| -155 | 2面まで | 土器 | かわらけ(大)手捏ね | - | - | - | 胎土:黒色粒を含む精良土 色調:淡赤褐色 手捏ね成形 13c前半 |
| -156 | 2面まで | 陶器 | 常滑 II類片口鉢 | - | - | - | 胎土:長石粒多く含む赤褐色の噴き出し有り 色調:暗褐色 内面に篋描き文様有り 常滑編年6a(1250~1275) |
| -157 | 2面まで | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:長石含む堅緻 色調:暗褐色 常滑編年5(1220~1250) |
| -158 | 2面まで | 磁器 | 青磁 鑄蓮弁文碗 | - | - | - | 胎土:灰白色の精良土 堅緻 鑄蓮弁文 内外面淡緑色の透明な釉 |
| -159 | 2面まで | 鉄製品 | 釘 | 長6.0 | 幅0.5 | 厚0.3 | 断面四角形 重さ3.4g |
| -160 | 2面まで | 銅製品 | 銭 祥符元寶 | 径2.5 | 7.6g | - | 初鑄年1008 北宋 付着物有り |
| -161 | 2面 | 磁器 | 白磁 口元皿 | - | - | - | 胎土:灰白色で精良土 透明な釉 口縁部釉剥ぎ取り |
| -162 | 2面 | 石製品 | 石 | 径11.0 | - | 厚3.7 | 花崗岩製 直径10.7~11.1cm 厚さ3.6cm ほぼ円形 叩き石及び擦り石か 煤付着 重さ695g |
| -163 | 2面土坑10 | 土器 | かわらけ(小) | - | 1.8 | 6.9 | 胎土:クサリ礫、微砂、細かな気泡を多く含む 色調:褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -164 | 2面土坑10 | 土器 | かわらけ(大) | (11.8) | 3.0 | (7.2) | 胎土:細かな白針、雲母、クサリ礫に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 口唇煤付着 |
| -165 | 2面土坑10 | 陶器 | 常滑 口縁玉縁壺 | 7.2 | - | - | 胎土:長石、黒色噴き出し有り 色調:明茶色 口唇部折り返しシャープ 常滑編年6a |
| -166 | 2面土坑11 | 土器 | かわらけ(小) | 11.4 | 2.8 | 7.0 | 胎土:雲母、チャート、黒色微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 口唇打ち欠きと煤付着 |
| -167 | 2面土坑11 | 土器 | かわらけ(小) | (8.0) | 1.7 | (6.7) | 胎土:白針、雲母、微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 口唇部煤付着 燈明皿 |
| -168 | 2面土坑11 | 土器 | かわらけ(小) | (8.1) | 1.5 | (5.7) | 胎土:白針、雲母、微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -169 | 2面土坑19 | 土器 | かわらけ(大) | 12.1 | 3.6 | 7.9 | 胎土:白針、雲母、土丹粒に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -170 | 2面土坑20 | 土器 | かわらけ(大)手捏ね | (11.9) | 3.2 | - | 胎土:黒色微砂を含む精良土 色調:明赤褐色 手捏ね成形 |
| -171 | 2面土坑20 | 土器 | かわらけ(小) | (13.2) | 3.2 | - | 胎土:微細な黒色微砂を含む精良土 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -172 | 2面土坑20 | 土器 | かわらけ(大) | 12.5 | 3.8 | 6.8 | 胎土:黒色微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -173 | 2面土坑20 | 土器 | 土丹加工品 円盤 | 5.3 | 5.2 | 1.8 | 用途不明 重さ40.1g |
| -174 | 2面土坑20 | 銅製品 | 銭 元豊通寶 | 径2.5 | 4.3g | - | 初鑄年1078 北宋 |
| -175 | 2面土坑17 | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | 46.0 | - | - | 胎土:長石多く含む堅緻 色調:暗茶灰色 外面首部に両区灰色の釉 常滑編年6a(1250~1275) |
| -176 | 2面土坑17 | 石製品 | 硯 破片 | 長8.7 | 幅1.1 | 厚1.1 | 重さ24.4g 黒灰色 鳴滝産 |
| -177 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (7.4) | 1.8 | (5.6) | 胎土:白針、黒色砂に微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -178 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 1.5 | (6.4) | 胎土:クサリ礫、土丹粒、微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -179 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (7.0) | 1.5 | (5.4) | 胎土:白針、クサリ礫に微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -180 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (7.6) | 1.5 | (6.0) | 胎土:白針、微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -181 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (7.8) | 1.7 | (6.2) | 胎土:土丹粒、黒色微砂を含む精良土 色調:淡黄褐色 成形:糸切り |
| -182 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (8.0) | 1.7 | (5.6) | 胎土:白針、土丹粒に微砂を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -183 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (8.6) | 1.7 | (6.4) | 胎土:雲母、黒色微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -184 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(小) | (8.4) | 1.3 | (7.0) | 胎土:クサリ礫、微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り |
| -185 | 2面土坑21 | 土器 | かわらけ(大) | (12.2) | 3.1 | (8.0) | 胎土:白針、クサリ礫、微砂を含む 色調:明黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |

図12 2面遺構・3面・3面遺構出土の遺物

()は復元法量・単位cm

| 番号 | 出土層位・遺構 | 種別 | 機種 | 口径 | 器高 | 底径 | 観察 |
|------|---------|-----|----------|--------|--------|-------|--|
| -186 | 2面土坑21 | 陶器 | 常滑 三耳壺 | 20.4 | (42.0) | 15.0 | 胎土:長石多く含む堅緻 色調:表面茶色~茶褐色に緑褐色の自然釉 常滑編年6a(1250~1275) |
| -187 | 2面土坑21 | 陶器 | 常滑 甕 口縁部 | - | - | - | 胎土:黒色噴き出し有り 堅緻 色調:淡茶褐色~茶褐色 口縁上部に自然釉 常滑編年5(1220~1250) |
| -188 | 2面土坑21 | 石製品 | 滑石鍋 | - | - | - | 口縁部片 内外面に煤付着 |
| -189 | 2面土坑21 | 鉄製品 | 釘 | 長4.2 | 幅0.5 | 厚0.3 | 断面四角形 重さ2.0g |
| -190 | 2面土坑21 | 鉄製品 | 釘 | 長4.7 | 幅0.5 | 厚0.2 | 鑄付着 重さ6.1g |
| -191 | 2面土坑21 | 鉄製品 | 釘 | 長10.0 | 幅0.4 | 厚0.4 | 断面四角形 重さ7.4g |
| -192 | 2面土坑21 | 銅製品 | 銭 至和元寶 | 径2.5 | 4.1g | - | 初鑄年1054 北宋 |
| -193 | 2面土坑21 | 銅製品 | 銭 宗通元寶 | 径2.4 | 3.0g | - | 初鑄年960 北宋 |
| -194 | 2面土坑21 | 銅製品 | 銭 不明 | 径2.4 | 3.5g | - | 銭種不明 |
| -195 | 3面 | 陶器 | 渥美 小壺 | (12.2) | - | - | 胎土:微砂含む砂っぽい 色調:淡灰褐色に内外面灰釉のハケ塗り 渥美編年2b(13c前半) |
| -196 | 3面 | 土器 | 火鉢 IA類 | - | - | - | 器壁が開き、口縁断面が釘頭状、胎土は砂が多く焼成は軟質 |
| -197 | 3面 | 鉄製品 | 釘 | 長8.8 | 幅0.5 | 厚0.4 | 断面四角形 重さ6.3g |
| -198 | 3面P4 | 土器 | かわらけ(小) | (8.8) | 1.5 | (5.8) | 胎土:微細な白針、クサリ礫に微砂を含む精良土 色調:淡褐色 薄手 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -199 | 3面P7 | 鉄製品 | 釘 | 長14.3 | 幅0.6 | 厚0.4 | 重さ13.6g 先端部が鉤針状に曲がる |
| -200 | 3面土坑15 | 土器 | かわらけ(大) | (13.4) | 3.2 | (9.4) | 胎土:白針、に砂と気泡を多く含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り |
| -201 | 3面土坑15 | 銅製品 | 銭 嘉祐通寶 | 径2.5 | 3.8g | - | 初鑄年1056 北宋 |
| -202 | 3面土坑15 | 銅製品 | 銭 政和通寶 | 径2.5 | 3.4g | - | 初鑄年1111 北宋 |
| -203 | 3面P13 | 銅製品 | 銭 皇宋通寶 | 径2.3 | 3.3g | - | 初鑄年1039 北宋 |

遺物観察表3



1. 由比ヶ浜通り（旧国道 246 号）大仏方向



2. 由比ヶ浜通り（旧国道 246 号）下馬方向



3. 道路断面



4. 検出確認した道路面（南西から）



5. 検出確認した道路面（東から）

図版2



1. 1区1面(南から)
2. 2区1面(北から)



3. 2区1面(北から)
4. 1区1面(北から) 手前道路





1. 1区東壁



2. 2区東壁



3. 道路断面（土丹による補修）

4. 道路側面



5. 道路縦方向（道路幅不明）

図版4



1. 1面土坑2・1・4 西から

2. 1面土坑2 北から



3. 土坑6 西から



4. 土坑5 西から



6. 溝1 かわらけ出土状況

5. 溝1 西から





1. 1区2面全景(南から)
2. 2区2面全景(北から)



3. 2区2面全景(北から)
4. 1区2面全景(北から)





1. 土坑 10・11・12



2. 土坑 11



3. 土坑 19・17・20

4. 土坑 21(東から)



5. 土坑 21(南から)



6. 土坑 21 常滑三耳壺出土状況



1. 1区3面全景(南から)
2. 2区3面全景(北から)



3. 2区3面全景(南から)
4. 1区3面全景(北から)





1. 3面土坑 15



2. 土坑 22



3. 3面土坑 23·24、2面土坑 21



5. 溝 2 · P28



4. 土坑 23·24 · P27



1. 最終トレンチ位置（南から）



2. 最終トレンチ位置（北から）



3. 最終トレンチ南壁（北から）

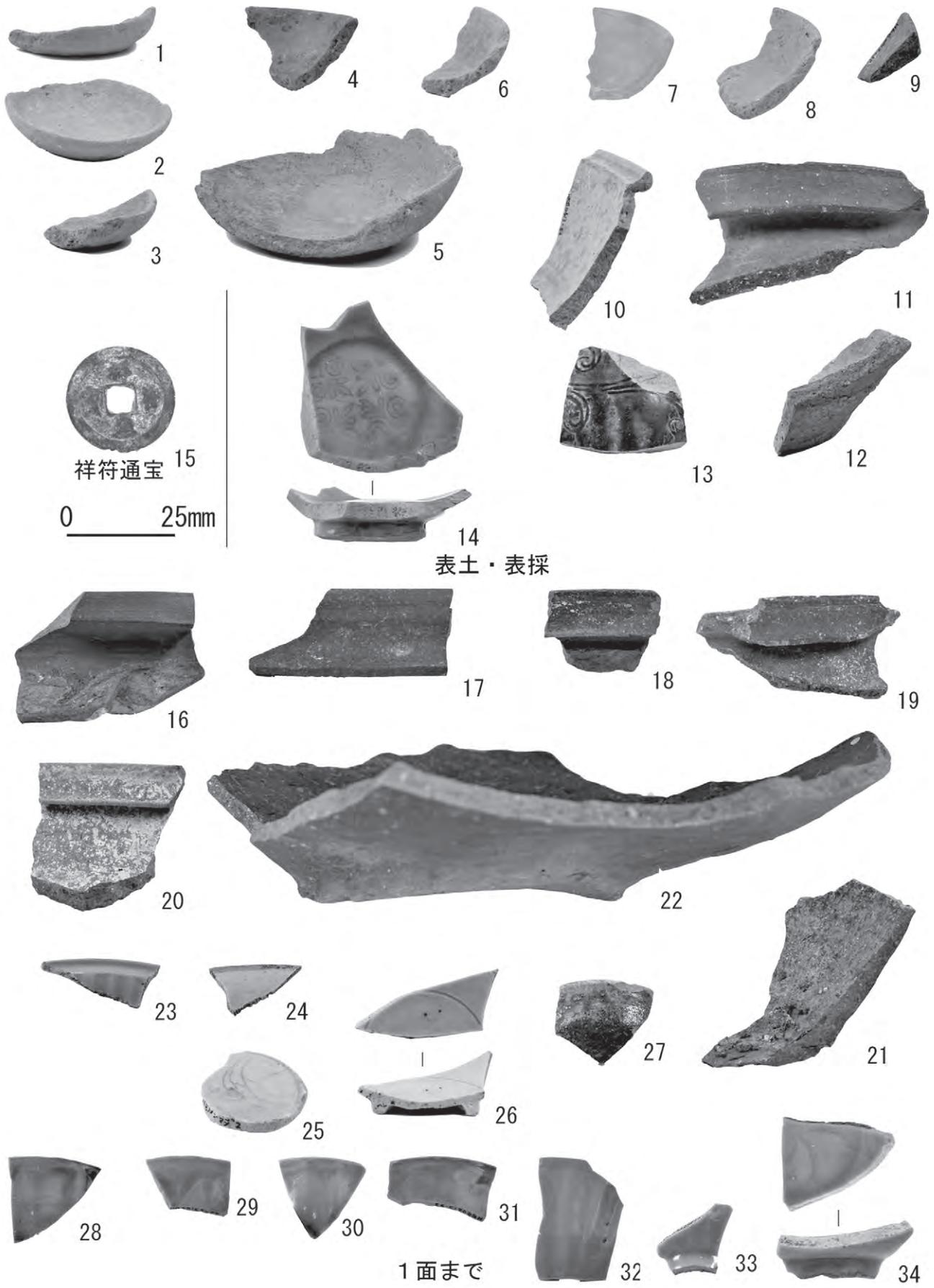


4. 最終トレンチ東壁（西から）



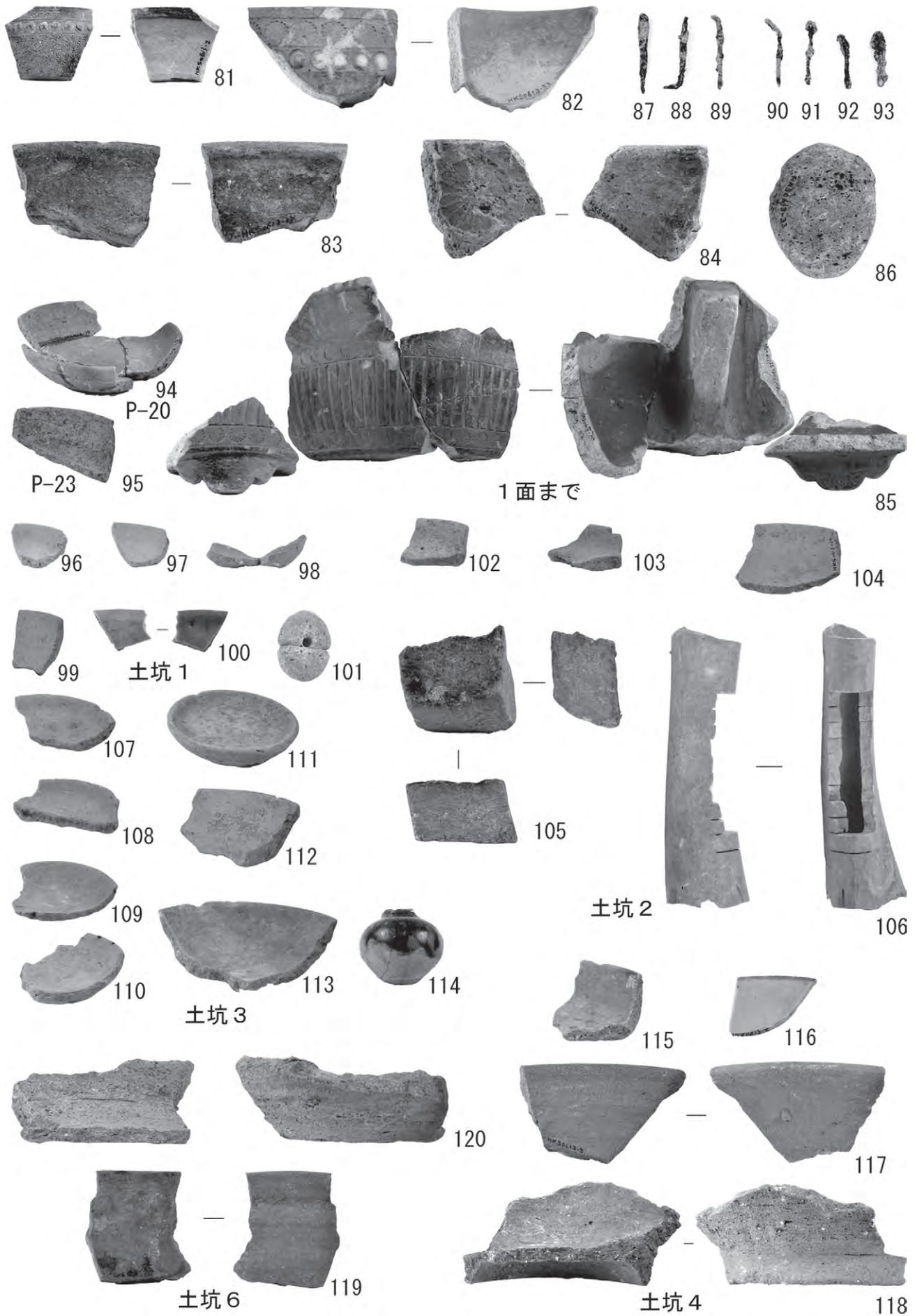
5. 最終トレンチ西壁（東から）

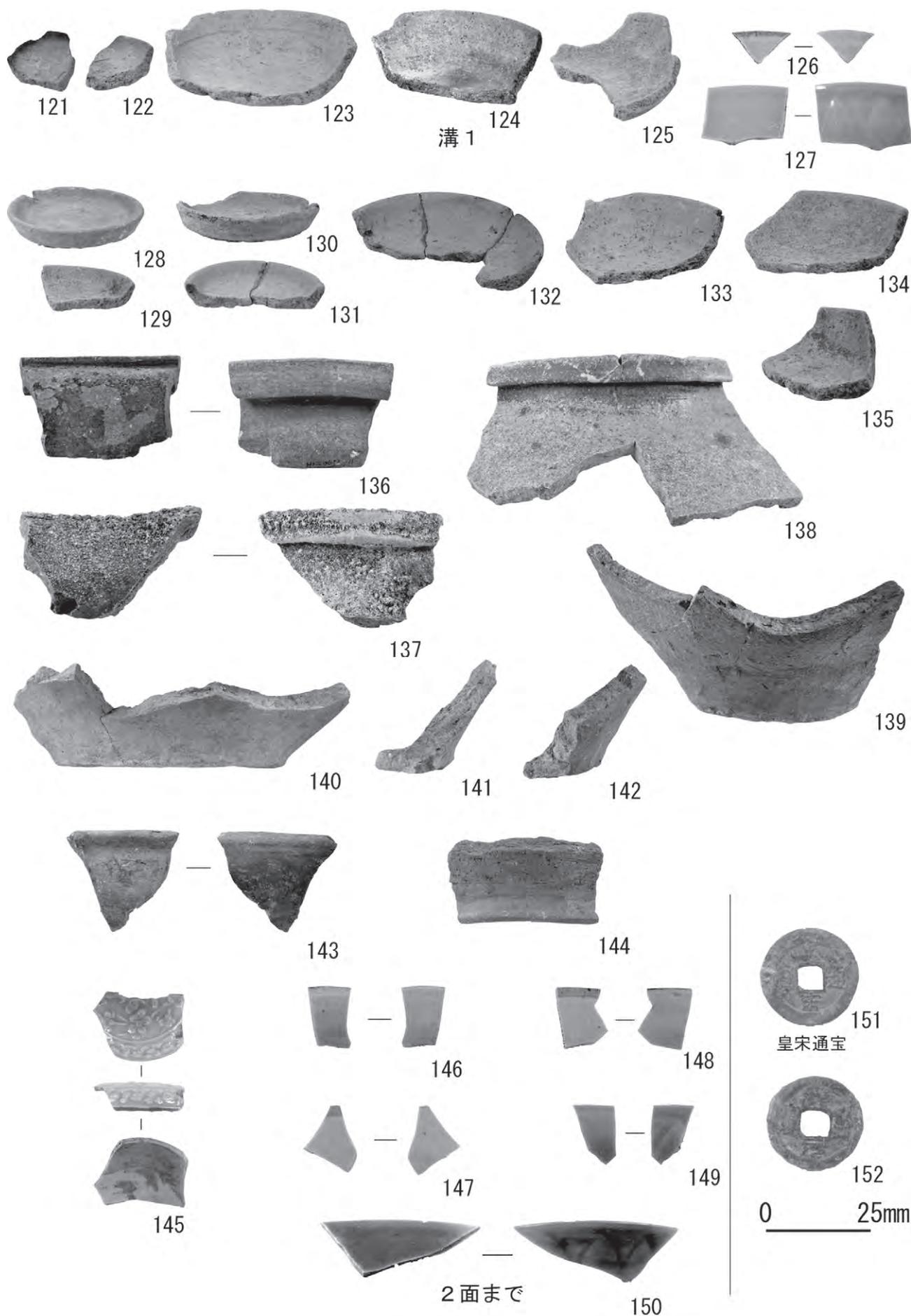
図版 10



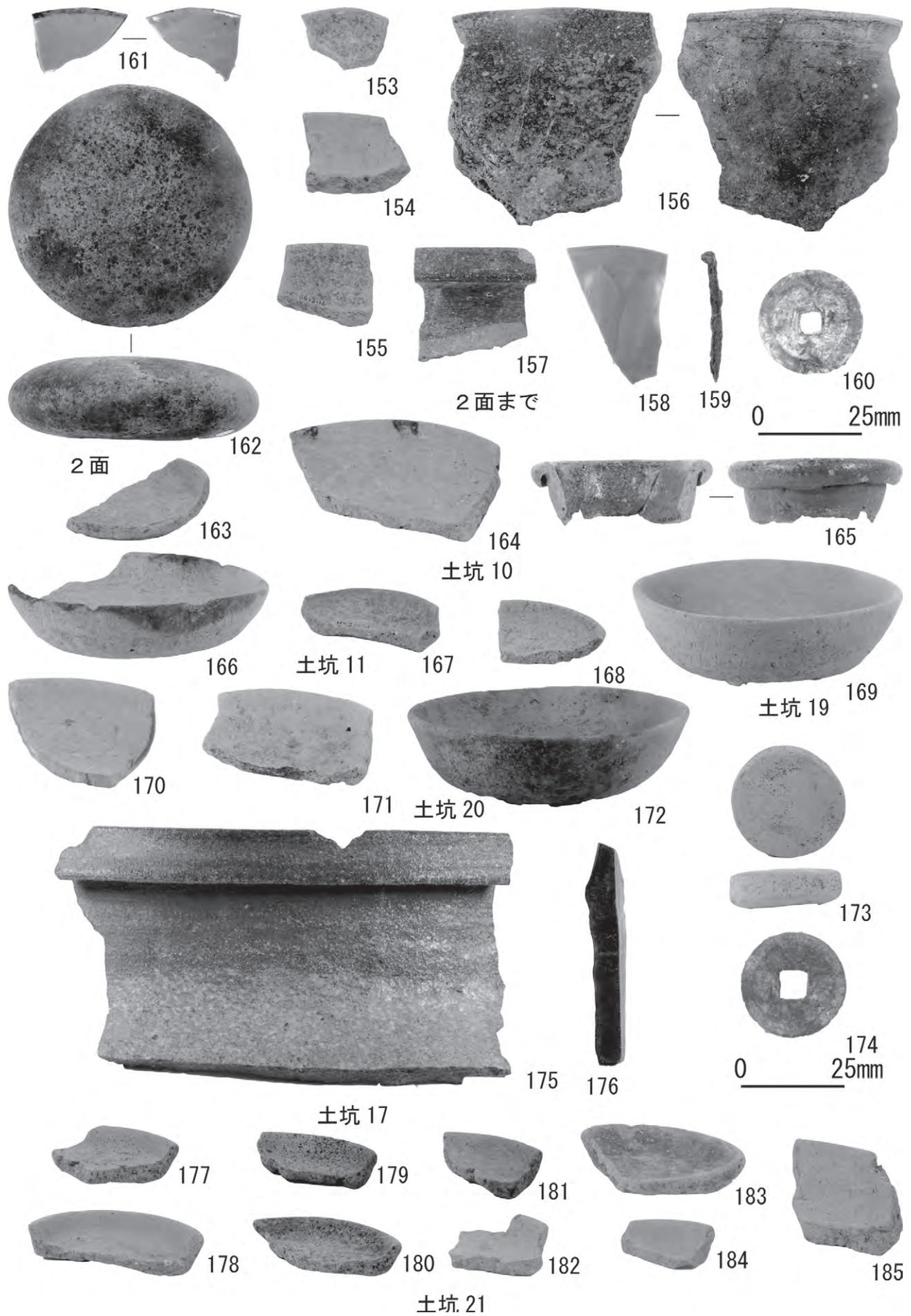


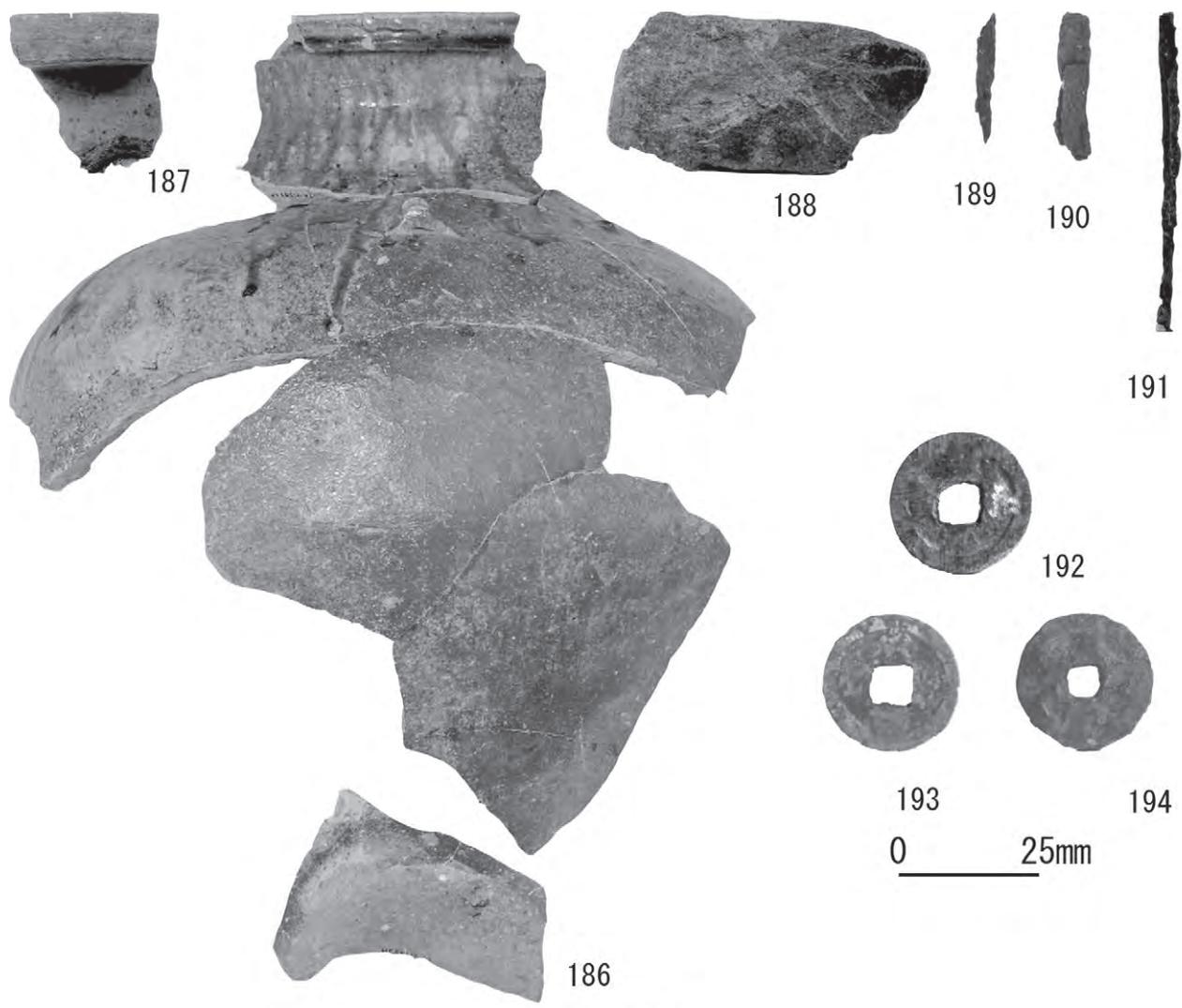
図版 12





図版 14

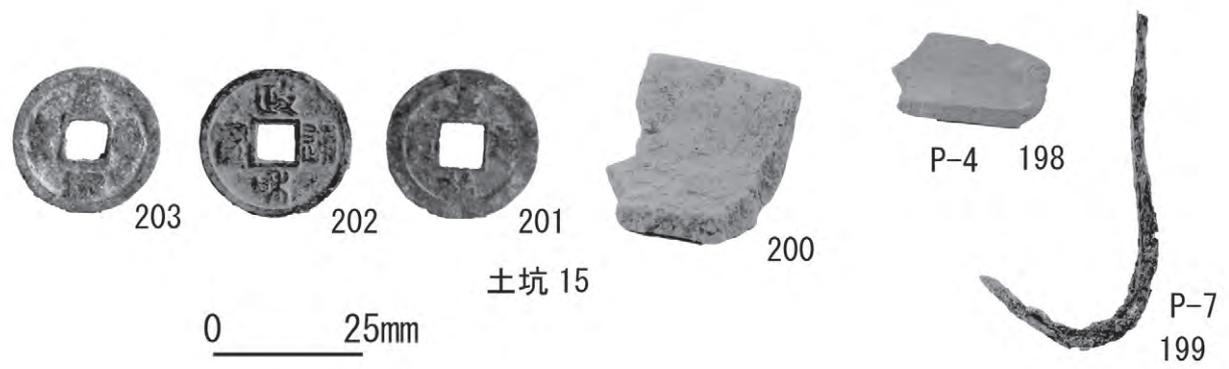




186
土坑 21



3 面



土坑 15



1 イボキサゴ

8 チョウセンハマグリ



9 ハマグリ



6 シオフキガイ



15 アワビ



17 アカニシ



14 サザエ





1 イボキサゴ



10 スガイ



20 ダンベイキサゴ



19 バテイラ



12 ツメタガイ



18 バイガイ



4 イボウミニナ



16 ヒメヨウラクガイ



14 サザエ蓋



3 ホソウミニナ



5 アラムシロガイ



14 無棘型サザエ



14 有棘型サザエ



2 ウミニナ



17 アカニシ

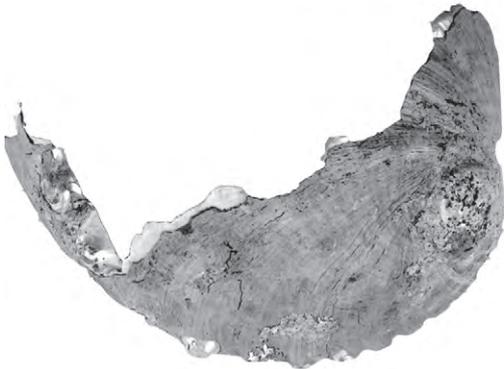


7 カニモリガイ





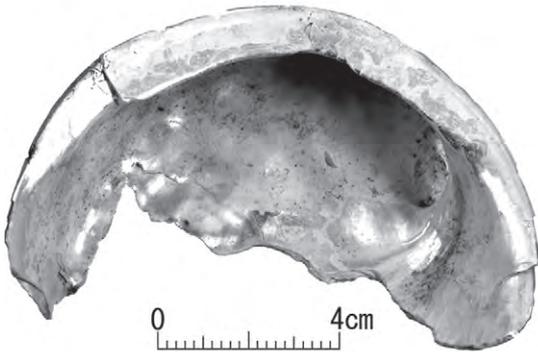
13 サルボウガイ



6 シオフキガイ



9 ハマグリ



15 アワビ



11 アサリ



8 チョウセンハマグリ

